

(様式第10)

元 京 医 病 第 95 号
令 和 元 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 様

京都府公立大学法人
理事長 金田 章裕

京都府立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成30年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 4 6 5
氏 名	京都府公立大学法人

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

京都府立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒 602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 4 6 5	電話(075) 251-5111
-------------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器内科	② 消化器内科
③ 循環器内科	④ 腎臓内科
⑤ 神経内科	⑥ 血液内科
⑦ 内分泌内科	⑧ 代謝内科
⑨ 感染症内科	⑩ アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑪ リウマチ科	
診療実績	
「神経内科」の診療内容は脳神経内科で提供している。	
「感染症内科」の診療内容は内科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	② 消化器外科
③ 乳腺外科	④ 心臓外科
⑤ 血管外科	⑥ 心臓血管外科
⑦ 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	⑧ 産科	⑨ 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	⑬ 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☒ 有 ・ ☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 移植外科	2 小児心臓血管外科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科
6 脳神経内科	7 内分泌・糖尿病・代謝内科	8 内分泌・乳腺外科	9 精神科・心療内科	10 救急医療科
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
118 床	床	54 床	床	893 床	1,065 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	256 人	237 人	493.0 人	看護補助者	39 人	診療エックス線技師	人
歯科医師	5 人	11 人	16.0 人	理学療法士	16 人	臨床検査技師	66 人
薬剤師	56 人	7 人	61.5 人	作業療法士	6 人	衛生検査技師	人
保健師	人	0 人	0.0 人	視能訓練士	10 人	その他	人
助産師	25 人	0 人	25.0 人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	733 人	61 人	777.1 人	臨床工学士	20 人	医療社会事業従事者	1 人
准看護師	人	0 人	0.0 人	栄 養 士	4 人	その他の技術員	16 人
歯科衛生士	9 人	0 人	9.0 人	歯科技工士	3 人	事 務 職 員	211 人
管理栄養士	10 人	5 人	14.5 人	診療放射線技師	55 人	その他の職員	3 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	62 人	眼科専門医	22 人
外科専門医	63 人	耳鼻咽喉科専門医	14 人
精神科専門医	9 人	放射線科専門医	23 人
小児科専門医	26 人	脳神経外科専門医	10 人
皮膚科専門医	10 人	整形外科専門医	25 人
泌尿器科専門医	21 人	麻酔科専門医	24 人
産婦人科専門医	23 人	救急科専門医	7 人
		合 計	339 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (夜久 均) 任命年月日 平成 30 年 4 月 1 日

平成17、18、19、20年度 医療安全管理部長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	604.7人	3.5人	608.3人
1日当たり平均外来患者数	1,266.5人	115.4人	1,381.9人
1日当たり平均調剤数	1,341.4剤		
必要医師数	139.0人		
必要歯科医師数	7.0人		
必要薬剤師数	21.0人		
必要（准）看護師数	352.0人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	328.10 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病 床 数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	15 床 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 心電計 心細動除去装置 ペースメーカー ☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台 数	181.70 m ² m ² 9 台	病床数 病床数	9 床 床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名	37.00 m ²		
化学検査室	211.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、免疫自動分析装置、検体前処理装置、全自動グリコヘモグロビン測定装置、血糖検査機器、多項目自動血球分析装置、凝固検査機器、全自動細胞解析装置
細菌検査室	99.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット、全自動血液培養検査装置、細菌同定検査装置、薬剤感受性検査装置、抗酸菌遺伝子検査装置、抗酸菌液体培養検査装置、
病理検査室	284.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	脱脂脱水包埋装置、自動染色機、クライオスタット、硬組織用切断機、自動封入機、顕微鏡システム、画像データベース、バーチャルスライドシステム
病理解剖室	75.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	L字形ステンレス解剖台、写真撮影装置、ディープフリーザー、消毒装置、マクロ標本棚、体液吸引装置、脱脂脱水包埋装置
研 究 室	3,792.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	核磁気共鳴装置、スペクトロメーター、画像解析装置、遠心器、ミクロトーム、光度計、血液分析装置
講 義 室	616.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 4	室 収容定員 420 人
図 書 室	1,080.00 m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数 27	室 蔵書数 14,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		88.80 %	逆紹介率		75.60 %
算出根拠	A：紹介患者の数			16,017 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			16,911 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			3,843 人	
	D：初診の患者の数			22,379 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
松村 由美	京都大学医学部附属病院	○	特定機能病院の医療安全管理体制に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
平野 哲郎	立命館大学法科大学院法務研究科		法律研究者として関係の法律に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
佐藤 恵子	京都大学医学部附属病院		生命倫理学の観点から医療問題に精通している。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
秋篠 憲一			本院の患者として医療を受ける者の代表	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
京都府公立大学法人のホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	7人
角膜ジストロフィーの遺伝子解析	3人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	6人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	18人
泌尿生殖器腫瘍後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	1人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	0人
陽子線治療	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療	2人
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査	10人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
4	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	60
34	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	46
1	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	3
1	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	0
14	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	27
96	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	1
4	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
1	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	42
0	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
7	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	4
72	重症筋無力症	66	IgA 腎症	86
2	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	33
53	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	12
21	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	55
5	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	7
0	クロー・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	60
6	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
48	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
6	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
0	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	2
13	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
18	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
3	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	42
0	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
0	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	0
8	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	7
0	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
11	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	0
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	80
1	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	5
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	21
0	自己食空腔性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
0	シュワルツ・ヤンペル症候群	88	慢性血栓性肺高血圧症	17
18	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	2
9	天疱瘡	90	網膜色素変性症	19
2	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	0
11	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	0
15	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	42
8	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	2
16	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	13
6	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	89
14	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	245
28	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	2
11	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
12	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
23	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
15	パージャール病	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
4	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	0
232	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	0
94	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	チャージ症候群	0
88	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
39	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	7
20	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
14	成人スチル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
3	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	2
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	3
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	7	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ビッカーstaff脳幹脳炎	1	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	1	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	1	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	5	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	1
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	1	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	40	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	19
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	1
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	3
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	5
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	18

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	1	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	1
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	2
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・(一般)特定機能病院入院基本料 7対1	・入退院支援加算
・(結核)特定機能病院入院基本料 7対1	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料2
・医師事務作業補助体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・看護配置加算	・緩和ケア病棟入院料1
・看護補助加算	・精神科急性期治療病棟入院料1
・重症者等療養環境特別加算	・入院時食事療養／生活療養(Ⅰ)
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科応急入院施設管理加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・精密触覚機能検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料イ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料ロ	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・がん患者指導管理料ハ	・国際標準検査管理加算
・外来緩和ケア管理料	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・胎児心エコー法
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・院内トリアージ実施料	・ヘッドアップティルト試験
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来放射線照射診療料	・脳波検査判断料1
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・療養・就労両立支援指導料の注2に掲げる相談体制充実加算	・補聴器適合検査
・がん治療連携計画策定料	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・コンタクトレンズ検査料1
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料1	・画像診断管理加算1
・医療機器安全管理料2	・遠隔画像診断
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・冠動脈CT撮影加算
・遺伝学的検査	・心臓MRI撮影加算
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来化学療法加算1	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・羊膜移植術
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・認知療法・認知行動療法1	・網膜再建術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・人工中耳植込術
・医療保護入院等診療料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・口腔粘膜処置	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・レーザー機器加算	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・硬膜外自家血注入	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・人工腎臓	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・手術用顕微鏡加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CAD/CAM冠	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・手術時歯根面レーザー応用加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・胸腔鏡下弁形成術
・センチネルリンパ節加算	・経カテーテル大動脈弁置換術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・胸腔鏡下弁置換術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・経皮的僧帽弁クリップ術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・同種死体腎移植術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・生体腎移植術
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・膀胱水圧拡張術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・補助人工心臓	・腹腔鏡下仙骨膿固定術
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・輸血管理料 I
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・コーディネート体制充実加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・自己クリオプレシピレート作製術(用手法)
・体外衝撃波胆石破碎術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下肝切除術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・生体部分肝移植術	・歯周組織再生誘導手術
・同種死体肝移植術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・体外衝撃波腭石破碎術	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下腭腫瘍摘出術	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術	・麻酔管理料(II)
・同種死体腭移植術、同種死体腭腎移植術	・放射線治療専任加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・1回線量増加加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

[illegible]

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
・腹腔鏡下広汎子宮全摘術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	192回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34例 / 剖検率 6.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
嚥下障害に対するconnectome modifying therapyの開発	山脇 正永	総合診療科	5,571,365	補○ 委	文部科学省
高速高精度な選択反応モニタリング定量的質量分析法による大腸癌先制医療の確立	内藤 裕二	消化器内科	4,550,000	補○ 委	文部科学省
炎症性腸疾患に対する局所制御型一酸化炭素遊離薬の開発	高木 智久	消化器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
肝細胞プロファイリングに基づくヒト慢性肝不全の病態解明と新規治療法の確立	西川 太一郎	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
脂肪肝炎におけるHSP110ファミリーの脂質、糖代謝制御機構の解明	山口 寛二	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
腸内フローラをターゲットとした新規がん悪液質治療法の開発	石川 剛	消化器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
十二指腸粘膜バリアを標的とした機能性ディスペプシア治療薬開発に向けた基盤研究	福居 顕文	消化器内科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
Wnt5aペプチドによる腸管炎症抑制作用に関する検討	内山 和彦	消化器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
SSA/Pにおける腸内フローラの解析	稲田 裕	消化器内科	910,000	補○ 委	文部科学省
腸管抗原提示細胞によるサイトカイン誘導と腸炎制御メカニズムの解明	春里 暁人	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
Tolloid like 1遺伝子多型のNAFLDの病態における意義	瀬古 裕也	消化器内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ヒトインフルエンザウイルスによる腸管感染の証明とメカニズムの解明	廣瀬 亮平	消化器内科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
温度感受性受容体を介した消化管蠕動制御の分子機構の解明と機能性消化管障害への応用	井上 健	消化器内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
メタゲノムおよびメタボローム解析によるピロリ除菌後胃癌診断システムの開発	土肥 統	消化器内科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
分子シャペロンAPG-2による非アルコール性脂肪性疾患の制御と、その機序に基づく疾患予後評価法、治療法の開発	伊藤 義人	消化器内科	15,500,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
診断・治療・予防法開発を目的とした季節性インフルエンザ関連腸炎の発症メカニズム解明および臨床病理学的解析	廣瀬 亮平	消化器内科	1,500,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
機能性野菜を用いた腸内フローラ解析による生体恒常性維持効果の実証研究	内藤 裕二	消化器内科	2,146,000	補 委○	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
ウイルス性肝疾患を含む代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	伊藤 義人	消化器内科	1,300,000	補 委○	国立大学法人東京大学
地域に応じた肝炎ウイルス診療連携体制構築の立案に資する研究	伊藤 義人	消化器内科	1,000,000	補 委○	国立大学法人金沢大学
消化管癌の内視鏡治療における次世代局注液開発(シーズ管理番号【A128】)	廣瀬 亮平	消化器内科	313,909	補 委○	国立大学京都大学
法施行前より実施中の特定臨床研究に関する調査	高木 智久	消化器内科	454,545	補 委○	国立大学法人東北大学
うつ病モデルマウスにおける好中球細胞外トラップ形成を標的とした心血管病予防戦略	山田 浩之	循環器内科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
Caveolin-Cavinシステムによる肺高血圧症発症機序解明と新規治療法探索	中西 直彦	循環器内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
合成アミロイドβ受容体によるアルツハイマー病の新規遺伝子細胞治療法の確立	星野 温	循環器内科	4,030,000	補○ 委	文部科学省
急性冠症候群患者残存不安定病変に対するPCSK9阻害薬のプラーク安定化効果の検討	若菜 紀之	循環器内科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
拠点名:真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	的場 聖明	循環器内科	16,361,100	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
重症虚血肢に対し、筋組織酸素飽和度(StO2)をモニタリングする近赤外線分光装置(NIRS)を使用した至適運動療法を確立する研究	的場 聖明	循環器内科	14,833,197	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
立体造形による機能的な生体組織製造技術の開発	五條 理志	循環器内科	2,880,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
症候性の重症大動脈弁狭窄症に対するTAVRによって生活の質(QOL)改善を認めない症例を同定する予測因子を明らかにし、TAVRの適応への提言、費用対効果の改善を目指す	的場 聖明	循環器内科	230,769	補 委○	国立大学法人北海道大学
慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	白石 裕一	循環器内科	71,186	補 委○	国立大学法人東京医科歯科大学

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
合成アミロイドβ受容体を用いたアルツハイマー病の遺伝子細胞治療法開発(シーズ管理番号【A126】)	星野 温	循環器内科	223,000	補委○	国立大学京都大学
CRISPR/Cas9システムを用いた成体腎臓での後天的遺伝子改変法の確立	草場 哲郎	腎臓内科	1,170,000	補委○	文部科学省
肺癌治療における免疫チェックポイント阻害剤のバイオマーカー探索	高山 浩一	呼吸器内科	1,560,000	補委○	文部科学省
NSAIDs内服で惹起される好酸球性炎症とPGE2/EP3遺伝子多型に関する検討	金子 美子	呼吸器内科	2,470,000	補委○	文部科学省
悪性腫瘍に伴う悪液質の標準治療の確立	高山 浩一	呼吸器内科	7,550,000	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
慢性炎症を呈する非肥満2型糖尿病患者に特異的な自己抗体の探索および病的意義の解明	福田 拓也	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,560,000	補委○	文部科学省
自然リンパ球とマクロファージの相互作用に注目した動脈硬化の病態解明	牛込 恵美 (白石恵美)	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,690,000	補委○	文部科学省
新規サルコペニア関連microRNAの生物学的機序の解明	橋本 善隆	内分泌・糖尿病・代謝内科	1,170,000	補委○	文部科学省
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創	福井 道明	内分泌・糖尿病・代謝内科	75,000	補委○	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
難治性リンパ腫におけるMYC, PVT1再構成・発現の解析と臨床応用	谷脇 雅史	血液内科	1,040,000	補委○	文部科学省
B細胞性腫瘍のクローン性進展におけるSGO-1の機能的意義と制御による合成致死	古林 勉	血液内科	1,430,000	補委○	文部科学省
多発性骨髄腫におけるMDSCによる免疫制御機構の解析および治療への応用	志村 勇司	血液内科	1,690,000	補委○	文部科学省
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適薬な分子標的療法と高齢者評価ツールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究	黒田 純也	血液内科	975,000	補委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究(JCOG)	黒田 純也	血液内科	300,000	補委○	国立がん研究センター研究開発費
肺線維症の病因におけるAIF-1の役割の解明と治療法の開発	川人 豊	膠原病・リウマチ・アレルギー科	1,820,000	補委○	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
フラクタル幾何学を用いた大脳白質病変進展の解析	水野 敏樹	脳神経内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
成人期発症脳白質疾患の遺伝学的病態解明研究	吉田 誠克	脳神経内科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
オートファジー・酸化ストレスの観点からのp62ーALS変異の疾患発症機序の解明	渡邊 義久	脳神経内科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
解糖系酵素変異に注目した新しいパーキンソン病病態解明と治療薬開発	笠井 高士	脳神経内科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
側頭葉てんかんの表情認知機能のメカニズムの解明-てんかん患者の社会生活	田中 章浩	脳神経内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
多元バイオマーカーによる認知症の病態解明	水野 敏樹	脳神経内科	3,000,000	補 委○	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター
パーキンソン病の代謝産物バイオマーカー創出およびその分子標的機構に基づく創薬シーズ同定 分担研究課題:候補代謝産物BMの脳脊髄液を用いた検証	徳田 隆彦	脳神経内科	600,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経難病克服のための高密度表面筋電図法を用いた運動単位発火パターン解析による中枢性障害検出の臨床応用	能登 祐一	脳神経内科	300,000	補 委○	京都市
腹水中exosomeをターゲットとした新たな治療法の開発	大辻 英吾	消化器外科	4,940,000	補○ 委	文部科学省
胃癌の新しい癌抑制遺伝子RUNX3の細胞分化・癌化機構の解明と診断・診断への応用	阪倉 長平	消化器外科	910,000	補○ 委	文部科学省
癌幹細胞に発現するTRPV2チャネルを標的とした食道癌新規治療法の開発	塩崎 敦	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
新規治療とバイオマーカー確立に向けた胃癌周囲間質に特異的miRNAの網羅的解析	辻浦 誠浩	消化器外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ゲノム構造解析による消化器癌の新規癌関連遺伝子の同定と臨床応用	渡邊 信之	消化器外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
膵癌幹細胞におけるクロライドイオン輸送体の発現機能解析と分子標的治療への応用	當麻 敦史	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
食道癌における容積感受性チャネル蛋白LRRC8Aの機能解析と低浸透圧療法への応用	原田 恭一	消化器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵癌に対するリンパ節転移・切除断端診断機器の開発	村山 康利	消化器外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
胃癌幹細胞特異的に発現するイオンチャネルの解析と新規分子標的治療法の開発	伊藤 博士	消化器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
分泌型癌抑制microRNAを用いた消化器癌の治療感受性予測・核酸治療法の開発	小松 周平	消化器外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
アクアポリン5発現解析に基づく新たな膵癌低浸透圧腹腔内パクリタキセル療法の開発	小菅 敏幸	消化器外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
脂肪細胞が関与する胃癌腹膜播種の分子機構の解明と新たな診断薬の開発応用	庄田 勝俊	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
膵癌幹細胞を標的とした新たなイオン・水輸送阻害併用低浸透圧細胞破壊療法の開発	井上 博之	消化器外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
胃癌に対する新規個別化診断のための血小板変容の検討	濱田 隼一	消化器外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
癌幹細胞におけるアポトーシス性容積減少を標的とした食道癌新規治療の開発	工藤 道弘	消化器外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
固形癌における革新的ゲノム解析法を用いた免疫微小環境ならびに腫瘍不均一性の解明	川口 耕	消化器外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
僧帽弁狭窄に対するステントレス僧帽弁置換術の安全性と有効性の評価:多施設共同研究	夜久 均	心臓血管外科	3,380,000	補○ 委	文部科学省
臨床応用を想定した“自己体内再生型”結合組織代用血管バイオチューブの多角的展開	神田 圭一	心臓血管外科	6,760,000	補○ 委	文部科学省
異種動物体内で自在に作製でき緊急手術にも対応可能な自己再生型小口径代用血管の開発	山南 将志	心臓血管外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
先天性心疾患の外科治療における自己結合組織による肺動脈形成素材の開発	前田 吉宣	心臓血管外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
心拍動下冠動脈バイパス術の長期成績:日本心臓血管外科手術データベースを用いた検討	沼田 智	心臓血管外科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
先天性心疾患の外科治療における流体力学的解析の応用	宮崎 隆子	心臓血管外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
自家・他家由来生体材料を心臓血管補填組織として用いるために最適な処理方法の開発	井上 知也	心臓血管外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
異種脱細胞化結合組織管を足場に患者体内で急速形成される自家移植用代用血管の開発	神田 圭一	心臓血管外科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
成人先天性心疾患再手術戦略のための、先端ITを駆使した血流診断システムの構築	板谷 慶一	心臓血管外科	7,020,000	補○ 委	文部科学省
悪性胸腺上皮性腫瘍のPD1/PDL1作用に関する病態解明と新たな免疫療法の開発	井上 匡美	呼吸器外科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
エタノール放出発熱ポリマーによる微小肺癌のMRIガイド下注入硬化治療法の開発	島田 順一	呼吸器外科	15,730,000	補○ 委	文部科学省
肺癌のパクリタキセル耐性に関わる関連タンパク質の同定とその機能解明	下村 雅律	呼吸器外科	780,000	補○ 委	文部科学省
ラット開胸モデルを用いた血小板活性抑制による癒着防止効果の検証	常塚 啓彰	呼吸器外科	780,000	補○ 委	文部科学省
ICFA法による移植臓器組織中抗ドナー特異的HLA抗体の測定法の開発と臨床検討	吉村 了勇	移植・一般外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
RNA干渉を用いたドナー臓器修復・免疫寛容誘導戦略の前臨床大動物実験による開発	昇 修治	移植・一般外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
顎骨再建における手術支援装置の開発	沼尻 敏明	形成外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
小分子化合物を用いた高機能シェワ細胞誘導技術の開発と再生医療への展開	素輪 善弘	形成外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
無症候性脳腫瘍のデータベース構築のための基盤的研究	橋本 直哉	脳神経外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
オプトジェネティクスによる幹細胞移植後の神経細胞の機能評価	梅林 大督	脳神経外科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
iPS細胞に対してバイオリクターを用いた新しい硝子様軟骨再生法の開発	久保 俊一	整形外科	5,980,000	補○ 委	文部科学省
関節内低酸素環境に着目したHIF-1 α 誘導運動療法の開発	新井 祐志	整形外科	5,850,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
指電極の開発ー神経合併症の軽減を目指してー	細井 邦彦	整形外科	650,000	補○ 委	文部科学省
骨粗鬆症性椎体骨折に対する自己多血小板血漿を用いた椎体形成術の開発	長江 将輝	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
超高純度生体内吸収性固定材料の開発	岡 佳伸	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
MRIを用いた骨質評価法の開発 ー骨質を画像化するー	堀井 基行	整形外科	901,242	補○ 委	文部科学省
小児脊柱側弯症に対する生体内三次元骨格動態解析に基づく動的脊柱装具の開発	高取 良太	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
プリステリンを用いた新規骨肉腫治療薬の開発	寺内 竜	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
ダイレクト・リプログラミング法で作成した骨芽細胞を用いた低侵襲的骨再生治療の開発	谷口 大吾	整形外科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
体内時計と関節炎の包括的研究	藤原 浩芳	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
半永久電気分極処理生体骨を用いた骨折および骨欠損治療の開発	小田 良	整形外科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
拡散テンソル法を用いたサルコペニアに対する画像評価法の開発	原 佑輔	整形外科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
天然有機化合物デカルシンを用いた新規骨肉腫治療薬の開発	白井 寿治	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
骨粗鬆症におけるHGF/c-Metシグナルを介した骨と筋肉間ネットワークの解析	外村 仁	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
低酸素誘導因子の制御による関節リウマチの運動療法の開発ーサルコペニアの克服ー	中川 周士	整形外科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ウェアラブルIoTを用いた投球障害早期発見法の開発: 先制医療の観点から	森原 徹	整形外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
connexin43を分子標的とした関節リウマチに対する創薬基盤の構築	土田 真嗣	整形外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省

小計 15

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
左室と右室の心筋は本質的に異質か？	八代 健太	整形外科	2,783,734	補○ 委	文部科学省
アグリカンの陰性荷電に着目したOAに対するcharge based DDSの開発	久保 俊一	整形外科	2,730,000	補○ 委	文部科学省
有限要素法を用いた変形足に対する術前評価法の開発ーオーダーメイド手術を目指してー	城戸 優充	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
時計遺伝子CRYに着目した体内時計の骨の成長および変形性関節症の制御機構の解明	大久保 直輝	整形外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
軟骨細胞のストレス応答におけるSIRT1の役割の解明	井上 裕章	整形外科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
ウェアラブルデバイスによる上肢関節負荷の定量化および管理法の開発	木田 圭重	整形外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症のエストロゲン関連受容体による伝達系に基づく新規分子標的治療の基盤確立	北脇 城	産婦人科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
エストロゲン伝達系を介した子宮体癌浸潤転移機構解明と新規分子治療のための基盤確立	森 泰輔	産婦人科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
子宮体癌の新規内分泌療法を目的としたエストロゲン関連受容体のリガンド同定	松島 洋	産婦人科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
エストロゲンによる動脈硬化作用機序の解明と安全なホルモン補充療法の基盤確立	伊藤 文武	産婦人科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
子宮内膜症における制御性T細胞による免疫制御機構と病因病態への関与の解明	田中 佑輝子	産婦人科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
イソフラボンの新たな子宮内膜症治療薬としての分子基盤の確立	高岡 宰	産婦人科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
若年女性スポーツの障害予防のための介入研究	北脇 城	産婦人科	600,000	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮腺筋症の病態解明、および予防・治療法の開発	北脇 城	産婦人科	2,200,000	補 委○	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
SJS/TENの発症機序ならびに病態解明に向けた戦略的研究	外園 千恵	眼科	5,070,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞干渉を介在する細胞外分泌微粒子EVsによる角膜内皮細胞変性制御	木下 茂	眼科	7,020,000	補○ 委	文部科学省
油層動態に基づく涙液層の形成・破壊の分子メカニズムの解明とその臨床応用	横井 則彦	眼科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
マイボーム腺脂質、常在細菌叢、性ホルモンの関係する眼表面疾患の病態解明	鈴木 智	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
RSPO1を用いた角膜再生医療の基盤技術開発	永田 真帆	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
IKZF1による眼表面炎症制御機構の解明ならびに新規抗炎症治療薬への応用	上田 真由美	眼科	910,000	補○ 委	文部科学省
学童近視における強度近視および後部ぶどう腫発症の予測因子の同定	稗田 牧	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
広義原発開放隅角緑内障重症化の遺伝的要因の解明	森 和彦	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
未分化増殖性ヒト角膜内皮細胞叢集団の in vitro 分化成熟法の創出	戸田 宗豊	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
全ゲノム解析による緑内障点眼薬の眼圧下降作用にかかわるバリエーションの同定	池田 陽子	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
AMD擬似病態をin vitroで再構成する共培養系でのRPE/Mp相互作用解析	羽室 淳爾	眼科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
機能性miRNAによる角膜上皮幹細胞の生体恒常性維持機構の解明	中村 隆宏	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
統合的な異所性培養細胞移植による高次眼表面機能の代償的再生と制御機構の再構築	稲富 勉	眼科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
次世代シーケンサーを用いた脂腺癌の遺伝子解析と発症メカニズムの解明	渡辺 彰英	眼科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
線維化抑制と神経保護作用を標的とした加齢性黄斑変性症に対する治療法の開発	畑中 宏樹	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
網羅的計算解析による疾病病態アルゴリズムの構築ならびにその正当性の検証	木下 茂	眼科	3,120,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
サルコイドーシスぶどう膜炎における感染概念からの病態解明	永田 健児	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
角膜上皮細胞へのダイレクトリプログラミングが可能な薬剤開発	北澤 耕司	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
角膜内皮細胞分化における環境適応戦略としての代謝リプログラミングの階層性	丸山 悠子	眼科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
培養角膜内皮細胞を用いた水疱性角膜症に対する革新的再生医療の早期薬事承認による社会還元	木下 茂	眼科	79,452,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性疾患水疱性角膜症の分子病態診断法開発と標準医療化	上野 盛夫	眼科	8,320,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性角結膜疾患に対する培養自家口腔粘膜上皮シート移植	外園 千恵	眼科	44,673,159	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
人工コラーゲン様ポリペプチドを用いた黄斑円孔治療用デバイス開発	小嶋 健太郎	眼科	35,880,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SJS/TEN 眼後遺症の予後改善に向けた戦略的研究	外園 千恵	眼科	12,480,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
視機能が高齢者の身体機能に与える影響および予防・治療法の標準化に関する研究	外園 千恵	眼科	4,625,000	補 委○	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
培養ヒト角膜内皮細胞注入再生医療の高度化	木下 茂	眼科	39,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
国際ゲノム研究を基盤とした難治性眼疾患病態解明と治療戦略構築のための研究拠点形成	木下 茂	眼科	15,427,500	補 委○	日本学術振興会
多職種協働による地域包括ロービジョンケアシステム開発に関する研究	外園 千恵	眼科	1,400,000	補 委○	国立大学法人東北大学
眼表面難病診療アルゴリズムとテーラーメイド医療システムの開発	外園 千恵	眼科	390,000	補 委○	国立大学法人筑波大学
アレルギー疾患の患者および養育者の就労・就学支援を推進するための研究	加藤 則人	皮膚科	5,966,000	補○ 委	厚生労働省
Siglecs由来シグナルによるアレルギー性皮膚疾患の治療法の開発	加藤 則人	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
腫瘍特異的リンパ球をドラッグキャリアに用いた皮膚悪性腫瘍に対する新規治療法の開発	浅井 純	皮膚科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
嚢胞腎発症を制御する一次繊毛からのシグナル経路の解析	中島 由郎	皮膚科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
アレルギー性皮膚疾患における転写因子IRF3を介する自然免疫シグナルの役割の解明	峠岡 理沙	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
アレルギー性皮膚疾患における転写因子IRF3を介する自然免疫シグナルの役割の解明	峠岡 理沙	皮膚科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
3次元解剖情報に2次元リアルタイム超音波を同期させた穿刺ナビゲーションの開発	山田 恭弘	泌尿器科	1,169,991	補○ 委	文部科学省
前立腺癌監視療法における治療指針決定マーカーの開発	沖原 宏治	泌尿器科	3,250,000	補○ 委	文部科学省
複数の前立腺癌病巣のうち個体の予後を規定する癌病巣を特定する研究	岩田 健	泌尿器科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
女性泌尿器科手術における術中三次元リアルタイムナビゲーション法の開発	藤原 敦子	泌尿器科	2,210,000	補○ 委	文部科学省
前立腺癌細胞浸潤を促進する新規細胞膜結合型タンパク分解制御因子に関する研究	上田 紗弥(伊藤紗弥)	泌尿器科	2,079,886	補○ 委	文部科学省
脱細胞喉頭土台を用いた喉頭全摘後の喉頭再生に関する研究	平野 滋	耳鼻咽喉科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
細胞内外イオン環境の変化に対する鼻粘膜線毛細胞の応答性	安田 誠	耳鼻咽喉科	1,029,923	補○ 委	文部科学省
幹細胞からの声帯線維芽細胞への分化誘導と再生医療への応用	斉藤 敦志	耳鼻咽喉科	1,816,564	補○ 委	文部科学省
干渉波電気刺激および薬剤投与に伴う嚥下惹起制御機構の解明	杉山 庸一郎	耳鼻咽喉科	1,313,294	補○ 委	文部科学省
ゲノム編集を用いた新規的内耳遺伝子導入法の開発	坂口 博史	耳鼻咽喉科	1,595,895	補○ 委	文部科学省
新規組織イメージング法を用いた頭頸部癌免疫特性の解析	辻川 敬裕	耳鼻咽喉科	1,300,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
内耳におけるDIAPH1の生理的機能の解明およびDFNA1治療薬の開発	二之湯 弦	耳鼻咽喉科	1,241,634	補○ 委	文部科学省
頭頸部癌におけるautophagy異常に起因した癌治療抵抗性の解明と制御	新井 啓仁	耳鼻咽喉科	753,789	補○ 委	文部科学省
高齢者に対する介護予防法としての発声・嚥下機能向上訓練の開発	平野 滋	耳鼻咽喉科	1,249,766	補 委○	京都市
PTSDおよびうつ病モデル動物を用いた疾患鑑別のためのMRI画像研究	吉井 崇喜	精神科・心療内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
高齢者介護施設職員に対する神経心理学的知識の教育プログラムの開発と効果検証	大庭 輝	精神科・心療内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
高齢者介護施設利用者における薬剤性有害事象および薬剤関連エラーの臨床疫学的研究	綾仁 信貴	精神科・心療内科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
アルツハイマー型認知症バイオマーカーとしての松果体体積の臨床応用	松岡 照之	精神科・心療内科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
強迫症の新規治療;グルタミン酸系薬剤治療効果メカニズムの解明	阿部 能成	精神科・心療内科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
日常会話形式による認知症スクリーニング法の地域における応用可能性の検証	大庭 輝	精神科・心療内科	897,542	補○ 委	文部科学省
バーチャルリアリティを用いた強迫症短期集中治療プログラムの開発	中前 貴	精神科・心療内科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
脳機能補完による高齢者・障がい者の機能回復支援技術の研究開発	松岡 照之	精神科・心療内科	7,484,400	補 委○	国立研究開発法人情報通信研究機構
高齢者の安全で自律的な経済活動を見守る社会的ネットワークの構築 研究題目「安全な暮らしをつくる新しい公/私空間の構築研究開発領域」	松岡 照之	精神科・心療内科	4,117,406	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発 研究題目「詐欺脆弱性(認知機能低下高齢者版)の開発」	上野 大介	精神科・心療内科	6,231,705	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
研究領域「世界一の安全・安心社会の実現「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」研究課題「情報活用による高齢者シェアダイニングの構築」	成本 迅	精神科・心療内科	390,000	補 委○	国立研究開発法人科学技術振興機構
アルツハイマー病に対する機械学習を用いた非侵襲的MRI バイオマーカーの創設	山田 恵	放射線科	1,430,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
PET,CT,MRIによる包括的映像法を用いた不安定ブランクの病態評価	玉木 長良	放射線科	7,392,375	補○ 委	文部科学省
子宮頸部癌画像誘導小線源治療における最適な組織内照射併用方法の開発	山崎 秀哉	放射線科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
放射線皮膚炎の安価で簡便な普及型ユビキタス定量評価システムの開発	鈴木 弦	放射線科	3,120,000	補○ 委	文部科学省
3次元ポリマーゲル線量計を利用した高線量率小線源治療の品質保証の開発	武中 正	放射線科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
乳房ダイナミックMRI・早期造影動態解析を用いた新規乳腺病変評価法の構築	後藤 真理子	放射線科	998,580	補○ 委	文部科学省
NBCA血管塞栓術におけるNBCA専用調整剤の開発	林 奈津子	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
SWIおよびIVIM-MRIを用いた子宮筋腫と肉腫の鑑別能の検討	山田 幸美	放射線科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
空間把握能力を持ったCTガイド下穿刺補助デバイスの開発	増井 浩二	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
内部水冷式針を用いた肺スリガラス結節に対する媒体注入下マイクロ波凝固療法の構築	吉川 達也	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
I-123 MIBG の定量解析法を用いた神経芽腫の治療戦略への応用	西村 元喜	放射線科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
陽子線がん治療における生成反応断面積の測定及び体内線量評価システムの開発	松下 慶一郎	放射線科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
動体追跡放射線治療のための生体吸収性合金を用いた肺内留置マーカーの開発	田中 匡	放射線科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌病原性抗原の血清抗体価大規模疫学調査と抗緑膿菌ガンマグロブリン製剤試作	佐和 貞治	麻酔科	4,680,000	補○ 委	文部科学省
重症緑膿菌性肺炎に対するバクテリオファージ療法の前臨床試験	佐和 貞治	麻酔科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
多種画像診断モダリティを用いた血流とエネルギー損失解析による周術期治療戦略検討	石井 真紀	麻酔科	130,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脾臓由来M1型及びM2型単球系細胞を介した神経障害性疼痛発症のメカニズム解明	柴崎 雅志	麻酔科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
病態解明および創薬を目標とした小児先天性心疾患患者の赤血球中microRNA解析	中山 力恒	麻酔科	1,287,000	補○ 委	文部科学省
2型糖尿病易感染性病態の解明と治療に向けた白血球遺伝子及びcfDNAの網羅的解析	前田 祥子	麻酔科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
カナビノイド由来の新たなプロスタグランジン合成経路とその疼痛メカニズムへの関与	伊吹 京秀	麻酔科	1,040,000	補○ 委	文部科学省
トロンビン増幅経路に関与する凝固因子の相互作用に着目した凝固因子濃縮製剤の開発	小川 覚	麻酔科	2,600,000	補○ 委	文部科学省
ストレス性高カテコラミン血症が術後遷延痛を引き起こすメカニズムの解明	山崎 正記	麻酔科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌性肺傷害に対する新規免疫療法の開発	加藤 秀哉	麻酔科	780,000	補○ 委	文部科学省
動脈波解析によるFrank-Starling 心機能曲線予測アルゴリズムの構築	田畑 雄一	麻酔科	973,676	補○ 委	文部科学省
人工心肺使用開心術における血小板機能不全に関する遺伝子発現調節メカニズムの解明	石井 祥代	麻酔科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
緑膿菌感染症の自然免疫における抗体価の経時的解析と最適な獲得免疫の判定基準の検討	木下 真央	麻酔科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
MRSA肺炎に対するDDSを利用した複合抗体療法の開発	清水 優	麻酔科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
Parkinとミトコンドリア機能不全に着目した慢性痛の新規治療戦略	天谷 文昌	疼痛・緩和医療学教室	5,460,000	補○ 委	文部科学省
アレスチンと痛覚受容体の機能連関に注目した新たな慢性痛発症メカニズムの解析	天谷 文昌	疼痛・緩和医療学教室	2,080,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対するエクソソームデリバリーシステムを用いた新規細胞遺伝子治療の開発	細井 創	小児科	4,810,000	補○ 委	文部科学省
血清、髄液中microRNAを用いた横紋筋肉腫新規治療戦略の開発	宮地 充	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児がんにおける抗PD1抗体の臨床応用に向けた腫瘍免疫メカニズムの解明	土屋 邦彦	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
iPS細胞技術を用いたガンマグロブリン不応川崎病に対する新規治療標的分子の探索	池田 和幸	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫に対する成長因子受容体を標的とした新規キメラ抗原受容体T細胞療法の開発	柳生 茂希	小児科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
難治小児がんの特異的遺伝子発現とHDAC阻害剤による増殖抑制・分化誘導効果の検討	家原 知子	小児科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
横紋筋肉腫におけるRAS変異に基づいたプレシジョン医療開発のための基礎的検討	菊地 颯	小児科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
急性リンパ性白血病の薬剤耐性機序の分子基盤の解析	今村 俊彦	小児科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
ショウジョウバエモデルを用いたリボソーム病神経障害の分子病態解明と治療探索	千代延 友裕	小児科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
CRP陰性若年性特発性関節炎のバイオマーカー探索	秋岡 親司	小児科	1,170,000	補○ 委	文部科学省
時計遺伝子CLOCKの遺伝子多型と小児肥満の関連解析	中島 久和	小児科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
母体感染により発症する自閉症に対するフラボノイドの予防効果	吉田 路子	小児科	2,080,000	補○ 委	文部科学省
STXBPI関連てんかん性脳症の軸索輸送障害に着目した新たな病態機序の解明	戸澤 雄紀	小児科	2,340,000	補○ 委	文部科学省
新規治療戦略の確立をめざしたラブドイド腫瘍肝細胞の同定と細胞学的特性の解析	勝見良樹	小児科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
乳児アトピー性皮膚炎への早期介入と経口免疫寛容誘導によるアレルギーマーチへの影響を探索する前向きコホート研究	細井 創	小児科	390,000	補 委○	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
小児てんかん性脳症の革新的創薬を見据えた病態解析	千代延 友裕	小児科	8,910,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
小児及びAYA世代の横紋筋肉腫およびユーイング肉腫患者に対するリスク層別化臨床試験実施による標準的治療法の開発	細井 創	小児科	19,385,500	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
EPHB4受容体陽性悪性軟部腫瘍を標的とした非ウイルス遺伝子改変キメラ抗原受容体T細胞療法の非臨床実験	柳生 茂希	小児科	78,000,000	補 委○	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
悪性軟部腫瘍を対象としたWT1ペプチドワクチンの開発について	細井 創	小児科	9,596,303	補 委○	公益財団法人日本医師会
生殖機能温存がん治療法の革新的発展にむけた総合的プラットフォームの形成	細井 創	小児科	300,000	補 委○	国立大学法人東京大学
ゲノム情報と薬剤感受性予測に基づく、小児血液腫瘍における最適医療の実現に向けた研究 分担研究:晩期再発急性リンパ性白血病のバイオマーカーおよび治療標的の同定	今村 俊彦	小児科	3,000,000	補 委○	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
オラパリブ有効性を評価するバイオマーカーの開発	家原 知子	小児科	390,000	補 委○	国立大学法人東京医科歯科大学
乳児急性リンパ性白血病に対する国際共同第III 相臨床試験に向けた多施設共同臨床試験による新規治療戦略の確立研究 分担研究課題:MLL-16 臨床試験本	今村 俊彦	小児科	372,001	補 委○	国立大学法人大阪大学
先天性横隔膜ヘルニアにおける最適な人工換気法・手術時期・手術方法に関する研究	古川 泰三	小児外科	260,000	補 委○	国立大学法人大阪大学
難治性神経芽腫に対する分化誘導療法併用下でのエビジェネティック治療開発	田尻 達郎	小児外科	260,000	補 委○	地方独立行政法人大阪市民病院機構
バイオマーカーを用いた川崎病急性期治療法選択に関する研究	池田 和幸	小児科	260,000	補 委○	学校法人日本医科大学
遺伝子・細胞先端的技術研究開発 分担研究開発課題名:日本初の遺伝子改変T細胞の実用化を促進するための、霊長類モデルを用いた安全性評価系の基盤整備	柳生 茂希	小児科	6,500,000	補○ 委	国立大学法人信州大学
神経芽腫に対するEngineered Stem Cellによる新規細胞療法の開発	田尻 達郎	小児外科	4,030,000	補○ 委	文部科学省
難治性リンパ管腫に対する分子標的治療と光線力学療法を併用した新規低侵襲治療の開発	文野 誠久	小児外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対するMEK阻害剤の前臨床試験	東 真弓	小児外科	1,430,000	補○ 委	文部科学省
神経芽腫に対する間葉系幹細胞を用いた腫瘍選択性ドラッグデリバリーシステムの開発	木村 幸積	小児外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
胆道閉鎖症発症におけるSox17遺伝子発現の関与の臨床検体における解析	青井 重善	小児外科	1,690,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新たな根治的粒子線治療を実現する吸収性スプレーの適応拡大と実用化研究(課題番号17ck0106301h0001)	田尻 達郎	小児外科	300,000	補○ 委	国立大学神戸大学
難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究	田尻 達郎	小児外科	685,500	補 委○	国立大学法人岐阜大学
小児胎児性固形がんに対する標準的治療法開発	田尻 達郎	小児外科	1,301,630	補 委○	国立大学法人広島大学
製品化ポリテトラフルオロエチレン肺動脈弁付き導管の開発	山岸 正明	小児心臓血管外科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
羊膜の組織修復作用と骨再生能に着目した新規培養歯根膜由来細胞シートに関する研究	雨宮 傑	歯科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
足場とドラッグデリバリー機能を持つハイブリッドナノゲルを用いた顎骨再生と臨床応用	山本 俊郎	歯科	1,690,000	補○ 委	文部科学省
直接誘導骨芽細胞の疾患モデル動物への応用	滝沢 茂太	歯科	1,820,000	補○ 委	文部科学省
培養3次元軟骨組織の構築と非破壊的解析技術による軟骨再生医療	足立 哲也	歯科	1,950,000	補○ 委	文部科学省
骨代謝制御機構に注目した歯周関連疾患におけるβ-クリプトキサンチンの有用性の検討	大迫 文重	歯科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
ラマン分光法を用いた顎骨壊死の病態解明と診断技術への応用	足立 圭司	歯科	1,266,600	補○ 委	文部科学省
臨床応用にむけたテーラーメイド3D骨組織のナノ・ボトムアップ・ファブリケーション	佐藤 良樹	歯科	1,300,000	補○ 委	文部科学省
救急患者の効率的なデータ収集と臨床研究応用のためのシステム開発	松山 匡	救急医療科	1,351,351	補○ 委	文部科学省
HGF/c-Metシグナルを介した低酸素応答による椎間板恒常性維持機構の解析	三上 靖夫	リハビリテーション科	1,560,000	補○ 委	文部科学省
サルコペニアを可視化する-拡散テンソル法を用いた骨格筋の機能描出-	大橋 鈴世	リハビリテーション科	2,860,000	補○ 委	文部科学省
慢性心不全患者のサルコペニアに対する栄養療法を併用するリハビリテーションの効果	相良 亜木子	リハビリテーション科	1,040,000	補○ 委	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
日本・国立シンガポール大学・マサチューセッツ工科大学 解析的医療データソン	橋本 悟	集中治療部	2,450,000	補 委○	日本学術振興会
中性脂肪蓄積心筋血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	稲葉 亨	臨床検査部	76,924	補 委○	国立大学法人大阪大学
中間群および低悪性度に分類される原発性骨腫瘍の臨床病理学的解析	小西 英一	病院病理部	910,000	補○ 委	文部科学省
慢性腎臓病の尿細管間質病変形成における接着分子CADM1の役割	高島 康利	病院病理部	1,000,000	補○ 委	文部科学省
				小計	4

計 259件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ken Inoue	消化器内科	Effects of L-Menthol and Carbon Dioxide on the Adenoma Detection Rate during Colonoscopy: L-Menthol and Carbon Dioxide on Colonoscopy	Digestion 2019 Mar 7:1-9.	Original Article
2	Naohisa Yoshida	消化器内科	Efficacy of the combination use of aprepitant and palonosetron for improving nausea in various moderately emetogenic chemotherapy regimens.	BMC Pharmacology and Toxicology 2019 Jan 14;20:6.	Original Article
3	Naohisa Yoshida	消化器内科	An additional thirty seconds observation of the right-sided colon with narrow band imaging decreases missed polyps: a pilot study.	Dig Dis Sci 2018 Sep 19; 63: 3457-64	Original Article
4	Naohisa Yoshida	消化器内科	Blue laser imaging, blue light imaging, and linked color imaging for the detection and characterization of colorectal tumors.	Gut Liver 2019 Mar 15;13:140-148.	Review
5	Takeshi Ishikawa	消化器内科	Phase I clinical trial of adoptive transfer of expanded natural killer cells in combination with IgG1 antibody in patients with gastric or colorectal cancer.	International Journal of Cancer. 2018 Jun 15;142(12):2599-2609	Original Article
6	Takayuki Ota	消化器内科	Skeletal muscle mass as a predictor of the response to neo-adjuvant chemotherapy in locally advanced esophageal cancer.	Medical Oncology. 2019 Jan 2;36(2):15.	Original Article
7	Kazuhiko Uchiyama	消化器内科	Selected reaction monitoring for colorectal cancer diagnosis using a set of five serum peptides identified by BLOTCHIP®-MS analysis.	J Gastroenterol. 2018 Nov;53(11):1179-1185	Original Article
8	Yuji Naito	消化器内科	A next-generation beneficial microbe: Akkermansia muciniphila	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 2018, Jul; 63: 33-35.	Review
9	Yuji Naito	消化器内科	Redox-related gaseous mediators in the gastrointestinal tract	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition 2018, Jul; 63: 1-4.	Review
10	Hayato Miyake	消化器内科	Association of fatty pancreas with pancreatic endocrine and exocrine function	PLoS One 2018, Dec 13: e0209448.	Original Article
11	Hiroaki Yasuda	消化器内科	Usefulness of urinary trypsinogen-2 and trypsinogen activation peptide in acute pancreatitis: A multicenter study in Japan	World J Gastroenterol 2019, Jan 25: 107-117	Original Article
12	Naoki Mizuno	消化器内科	Increase in the skeletal muscle mass to body fat mass ratio predicts the decline in transaminase in patients with nonalcoholic fatty liver disease.	J Gastroenterol. 2019 Feb;54(2):160-170.	Original Article
13	Michihisa Moriguchi	消化器内科	Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy: A Potential Therapeutic Option for Hepatocellular Carcinoma with Portal Vein Tumor Thrombus.	Liver Cancer. 2018 May;7(2):209-210.	Letter

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
14	Shoji Keisuke	循環器内科	Impact of Therapeutic Angiogenesis Using Autologous Bone Marrow-Derived Mononuclear Cells Implantation in Critical Limb Ischemia With Scleroderma – Subanalysis of the Long-Term Clinical Outcomes Survey.	Circ J. 2019 Feb 25;83(3):662-671	Original Article
15	Takigami Masao	循環器内科	Evaluation using a four-dimensional imaging tool before and after pulmonary valve replacement in a patient with tetralogy of Fallot: a case report.	J Med Case Rep. 2019 Feb 5;13(1):30.	Case report
16	Kadoya Yoshito	循環器内科	Balloon-assisted sheath insertion technique for transfemoral aortic valve replacement through an aortoiliac endograft.	Cardiovasc Interv Ther. 2019 Feb 4.	Case report
17	Ono Kazunori	循環器内科	First-in-Man Clinical Pilot Study Showing the Safety and Efficacy of Intramuscular Injection of Basic Fibroblast Growth Factor With Atelocollagen Solution for Critical Limb Ischemia.	Circ J. 2018 Dec 25;83(1):217-223.	Original Article
18	Kadoya Yoshito	循環器内科	Rail-tracking calcification of lower limb arteries.	Clin Case Rep. 2018 Aug 14;6(9):1921-1922.	Case report
19	Kadoya Yoshito	循環器内科	Endovascular treatment of transplant renal artery stenosis based on hemodynamic assessment using a pressure wire: a case report.	BMC Cardiovasc Disord. 2018 Aug 22;18(1):172.	Case report
20	Kadoya Yoshito	循環器内科	Successful Endovascular Treatment for Aortic Thrombosis Due to Primary Antiphospholipid Syndrome: A Case Report and Literature Review.	Vasc Endovascular Surg. 2019 Jan;53(1):51-57.	Case report
21	Kadoya Yoshito	循環器内科	Fatal heart failure caused by severe pulmonary regurgitation, tricuspid regurgitation and late-onset mitral stenosis in an adult patient with Noonan syndrome: a case report.	BMC Cardiovasc Disord. 2018 Jul 16;18(1):148.	Case report
22	Yamano Michiyo	循環器内科	Murmur Associated with Diastolic Paradoxical Jet Flow in a 43-Year-Old Man with Hypertrophic Cardiomyopathy.	Tex Heart Inst J. 2018 Apr 7;45(2):102-105.	Case report
23	Terada Kensuke	循環器内科	Transplantation of periaortic adipose tissue inhibits atherosclerosis in apoE(-/-) mice by evoking TGF- β 1-mediated anti-inflammatory response in transplanted graft.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Jun 18;501(1):145-151.	Original Article
24	Yamamoto Keita	循環器内科	Augmented neutrophil extracellular traps formation promotes atherosclerosis development in socially defeated apoE(-/-) mice.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Jun 2;500(2):490-496.	Original Article
25	Kadoya Yoshito	循環器内科	Two-Wire Technique With a Gooseneck Snare to Bail Out the Tip Separation of a Crosser Catheter.	Vasc Endovascular Surg. 2018 May;52(4):299-303.	Case report
26	Hoshino Atsushi	循環器内科	Observation of Parkin-Mediated Mitophagy in Pancreatic β -Cells.	Methods Mol Biol. 2018 May;1759:41-46	Original Article
27	Kado Hiroshi	腎臓内科	Normotensive non-dipping blood pressure profile does not predict the risk of chronic kidney disease progression.	Hypertens Res. 2019 Mar;42(3):354-361.	Original Article
28	Nishioka N, Yamada T, Harita S et al	呼吸器内科	Successful sequential treatment of refractory tumors caused by small cell carcinoma transformation and EGFR-T790M mutation diagnosed by repeated genetic testing in a patient with lung adenocarcinoma harboring epidermal growth factor receptor mutations: A case report.	Respir Med Case Rep. 2018 Oct 6;25:261-263.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
29	Morimoto Y, Kishida T, Kotani SI et al	呼吸器内科	Interferon- β signal may up-regulate PD-L1 expression through IRF9-dependent and independent pathways in lung cancer cells.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Dec 9;507(1-4):330-336.	Original Article
30	Yoshimura A, Yamada T, Okura N,et al	呼吸器内科	The impact of the tumor shrinkage by initial EGFR inhibitors according to the detection of EGFR-T790M mutation in patients with non-small cell lung cancer harboring EGFR mutations.	BMC Cancer. 2018 Dec 11;18(1):1241.	Original Article
31	Imabayashi T, Uchino J, Osoreda H et al	呼吸器内科	Nicotine Induces Resistance to Erlotinib Therapy in Non-Small-Cell Lung Cancer Cells Treated with Serum from Human Patients.	Cancers (Basel). 2019 Feb 27;11(3).	Original Article
32	Katayama Y, Yamada T, Tanimura K et al	呼吸器内科	Impact of bowel movement condition on immune checkpoint inhibitor efficacy in patients with advanced non-small cell lung cancer.	Thorac Cancer. 2019 Mar;10(3):526-532.	Original Article
33	Yoshimura A, Yamada T, Tsuji T, et al	呼吸器内科	Prognostic impact of pleural effusion in EGFR-mutant non-small cell lung cancer patients without brain metastasis.	Thorac Cancer. 2019 Mar;10(3):557-563	Original Article
34	Katayama Y, Uchino J, Chihara Y, et al	呼吸器内科	Tumor Neovascularization and Developments in Therapeutics.	Cancers (Basel). 2019 Mar 6;11(3).	Review
35	Yoshimura A, Yamada T, Okura N et al	呼吸器内科	Clinical Characteristics of Osimertinib Responder in Non-Small Cell Lung Cancer Patients with EGFR-T790M Mutation.	Cancers (Basel). 2019 Mar 15;11(3).	Original Article
36	Imabayashi T, Uchino J, Yoshimura A et al	呼吸器内科	Safety and Usefulness of Cryobiopsy and Stamp Cytology for the Diagnosis of Peripheral Pulmonary Lesions.	Cancers (Basel). 2019 Mar 22;11(3).	Original Article
37	Emi Ushigome	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Prognostic significance of day-by-day variability of home blood pressure on progression to macroalbuminuria in patients with diabetes.	Journal of Hypertension. 2018 May; 36(5): 1068- 1075.	Original Article
38	Emi Ushigome	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Impact of masked hypertension on diabetic nephropathy in patients with type II diabetes: a KAMOGAWA-HBP study.	Journal of the American Society of Hypertension. 2018 May; 12(5): 364- 371.	Original Article
39	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Intake of Carbohydrate to Fiber Ratio Is a Useful Marker for Metabolic Syndrome in Patients with Type 2 Diabetes: A Cross- Sectional Study.	Annals of Nutrition and Metabolism. 2018 May; 72: 329-335.	Original Article
40	Ryosuke Sakai	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Late-night-dinner is associated with poor glycemic control in people with type 2 diabetes: The KAMOGAWA-DM cohort study.	Endocrine Journal. 2018 Apr; 65: 395-402.	Original Article
41	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Metabolically healthy obesity and risk of leukoaraisosis; a population based cross- sectional study.	Endocrine Journal. 2018 Jun; 65(6): 669-675.	Original Article
42	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Impact of respiratory function on the progression from metabolically healthy non- overweight to metabolically abnormal phenotype.	Nutrition, Metabolism & Cardiovascular Diseases. 2018 Sep; 28: 922-928.	Original Article
43	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Sarcopenia is associated with blood pressure variability in older patients with type 2 diabetes: A cross-sectional study of the KAMOGAWA-DM cohort study.	Geriatrics & Gerontology International. 2018 Sep; 18: 1345-1349.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
44	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors have adverse effects for the proliferation of human T cells.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition. 2018 Sep; 63(2): 106-112.	Original Article
45	Yoshitaka Hashimoto	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Consuming snacks mid-afternoon compared with just after lunch improves mean amplitude of glycaemic excursions in patients with type 2 diabetes: A randomized crossover clinical trial.	Diabetes & Metabolism. 2018 Dec; 44: 482-487.	Original Article
46	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Low urine pH is a risk for non-alcoholic fatty liver disease: A population-based longitudinal study.	Clinics and Research in Hepatology and Gastroenterology. 2018 Dec; 42(6): 570-576.	Original Article
47	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Ectopic fat obesity presents the greatest risk for incident type 2 diabetes: a population-based longitudinal study.	International Journal of Obesity (Lond). 2019 Jan; 43(1): 139-148.	Original Article
48	Ayumi Kaji	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Sarcopenia is associated with tongue pressure in older patients with type 2 diabetes: A cross-sectional study of the KAMOGAWA-DM cohort study.	Geriatrics & Gerontology International. 2019 Feb; 19(2): 153-158.	Original Article
49	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Short sleep duration is a risk of incident nonalcoholic fatty liver disease: a population-based longitudinal study.	Journal of Gastrointestinal and Liver Diseases. 2019 Mar; 28(1): 73-81.	Original Article
50	Takuro Okamura	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Maximum morning home systolic blood pressure is an indicator of the development of diabetic nephropathy: The KAMOGAWA-HBP study.	Journal of Diabetes Investigation. 2019 Mar; doi: 10.1111/jdi.13040.	Original Article
51	Ryosuke Sakai	内分泌・糖尿病・代謝 内科	Understanding of antidiabetic medication is associated with blood glucose in patients with type 2 diabetes: At baseline date of the KAMOGAWA-DM cohort study.	Journal of Diabetes Investigation. 2019 Mar; 10(2): 458-465.	Original Article
52	Tomoko Takimoto-Shimomura	血液内科	Establishment and Characteristics of a Novel Mantle Cell Lymphoma-derived Cell Line and a Bendamustine-resistant Subline.	Cancer genomics & proteomics. 2018 May-Jun;15(3):213-223.	Original Article
53	Yoshimi Mizuno	血液内科	Chromosomal abnormality variation detected by G-banding is associated with prognosis of diffuse large B-cell lymphoma treated by R-CHOP-based therapy.	Cancer Medicine. 2018 Mar;7(3):655-664.	Original Article
54	Yayoi Matsumura-Kimoto	血液内科	Pomalidomide with or without dexamethasone for relapsed/refractory multiple myeloma in Japan: a retrospective analysis by the Kansai Myeloma Forum.	International journal of hematology. 2018 May;107(5):541-550.	Original Article
55	Fujii C, Itoh K, Saito K, et al.	脳神経内科	Persistent microscopic active inflammatory lesions in the central nervous system of a patient with neuromyelitis optica treated with oral prednisolone for more than 40 years.	eNeurologicalSci. 23; 11: 17-19, May 2018.	Case report
56	Noto Y, Garg N, Li T, Timmins HC, et al.	脳神経内科	Comparison of cross-sectional areas and distal-proximal nerve ratios in amyotrophic lateral sclerosis.	Muscle Nerve. 58(6):777-783, Dec 2018.	Original Article
57	Noto Y, Simon NG, Selby A, et al.	脳神経内科	Ectopic impulse generation in peripheral nerve hyperexcitability syndromes and amyotrophic lateral sclerosis.	Clin Neurophysiol. 129(5): 974-980, May 2018.	Original Article
58	Akihiro Tanaka, Jun Hata, Naoki Akamatsu, et al.	脳神経内科	Prevalence of Adult Epilepsy in a General Japanese Population: the Hisayama Study.	Epilepsia Open. 24, Jan 2019 (オンライン).	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
59	Saito K, Shigetomi E, Yasuda R, et al.	脳神経内科	Aberrant astrocyte Ca ²⁺ signals “AxCa signals” exacerbate pathological alterations in an Alexander disease model.	Glia. 66(5): 1053–1067, May 2018.	Original Article
60	7. Fujinami J, Ohara T, Kitani-Morii F, et al.	脳神経内科	Cancer-Associated Hypercoagulation Increases the Risk of Early Recurrent Stroke in Patients with Active Cancer.	Cerebrovasc Dis. 46(1–2): 46–51, Jul 2018.	Original Article
61	8. Shinomoto M, Kasai T, Tatebe H, et al.	脳神経内科	Plasma neurofilament light chain: a potential prognostic biomarker of dementia in adult Down syndrome patients.	PLoS One Apr 2018. (in press)	Original Article
62	Michihiro Kudou	消化器外科	Value of Preoperative PET-CT in the Prediction of Pathological Stage of Gastric Cancer.	Annals of Surgical Oncology • 2018 Jun;25(6):1633–1639	Original Article
63	Tsutomu Kawaguchi	消化器外科	Novel MicroRNA-Based Risk Score Identified by Integrated Analyses to Predict Metastasis and Poor Prognosis in Breast Cancer.	Annals of Surgical Oncology • 2018 Dec;25(13):4037–4046	Original Article
64	Jun Kiuchi	消化器外科	Long-term Postoperative Nutritional Status Affects Prognosis Even After Infectious Complications in Gastric Cancer.	Anticancer Research • 2018 May ;38(5):3133–3138	Original Article
65	Tomoki Konishi	消化器外科	Comparison of Feeding Jejunostomy via Gastric Tube Versus Jejunum After Esophageal Cancer Surgery.	Anticancer Research • 2018 Aug;38(8):4941–4945	Original Article
66	Shuhei Komatsu	消化器外科	Preoperative Low Weight Affects Long-term Outcomes Following Curative Gastrectomy for Gastric Cancer.	Anticancer Research • 2018 Sep;38(9):5331–5337	Original Article
67	Junichi Hamada	消化器外科	Management of Pleural Effusion after mediastinoscopic radical esophagectomy	Anticancer Research • 2018 Dec;38(12):6919–6925	Original Article
68	Michihiro Kudou	消化器外科	Essentiality of Imaging Diagnostic Criteria Specific to Rectal Neuroendocrine Tumors for Detecting Metastatic Lymph Nodes	Anticancer Research • 2019 Jan ;39(1):505–510	Original Article
69	Keita Katsurahara	消化器外科	Relationship Between Postoperative CRP and Prognosis in Thoracic Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer Research • 2018 Nov;38(11):6513–6518	Original Article
70	Hitoshi Fujiwara	消化器外科	Transmediastinal approach for esophageal cancer: A new trend toward radical surgery	Asian journal of endoscopic surgery • 2019 Jan;12(1):3036	Original Article
71	Kyoichi Harada	消化器外科	Photodynamic diagnosis of peritoneal metastasis in human pancreatic cancer using 5-aminolevulinic acid during staging laparoscopy	ONCOLOGY LETTERS • 2018 Jul;16(1):821–828	Original Article
72	Toshiyuki Kobayashi	消化器外科	Chloride intracellular channel 1 as a switch among tumor behaviors in human esophageal squamous cell carcinoma.	Oncotarget • 2018 May;9(33):23237–23252	Original Article
73	Atsushi Shiozaki	消化器外科	Anion exchanger 2 suppresses cellular movement and has prognostic significance in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncotarget • 2018 May;9(40):25993–26006	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
74	Yuzo Yamazato	消化器外科	Aquaporin 1 suppresses apoptosis and affects prognosis in esophageal squamous cell carcinoma.	Oncotarget・2018 Jul;9(52):29957-29974	Original Article
75	Yamamoto T,Oka K,Kanda K	心臓血管外科	In Situ Graft Replacement for a Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm Infected with <i>Listeria monocytogenes</i> after Endovascular Aneurysm Repair.	Ann Vasc Dis. 2018 Sep 25;11(3):346-349	Case report
76	Yamamoto T,Minakawa T,Harada Y	心臓血管外科	Label-free Evaluation of Myocardial Infarct in Surgically Excised Ventricular Myocardium by Raman Spectroscopy.	Sci Rep. 2018 Oct 2;8(1):14671. doi: 10.1038/s41598-018- 33025-6.	Original Article
77	Yamazaki S,Numata S, Inoue T	心臓血管外科	Impact of right ventricular volume and function evaluated using cardiovascular magnetic resonance imaging on outcomes after surgical ventricular reconstruction.	Eur J Cardiothorac Surg. 2018 Nov 1;54(5):867-874.	Original Article
78	Sakai O,Oka K, Inoue T	心臓血管外科	Internal Endoconduit Technique during Transcatheter Aortic Valve Implantation.	Thorac Cardiovasc Surg Rep. 2019 Jan;8(1):e5-e7. doi: 10.1055/s-0038- 1676963.	Case report
79	Kanzaki T,Numata S, Yamazaki S	心臓血管外科	Coronary arteriovenous fistula draining into persistent left superior vena cava.	Ann Thorac Surg. 2019 Mar 13. pii: S0003- 4975(19)30337-6	Case report
80	Inoue Masayoshi	呼吸器外科	Collagen gel droplet-embedded culture drug sensitivity test for adjuvant chemotherapy after complete resection of non-small-cell lung cancer	Surgery Today・2018 Apr;48: 380-387	Original Article
81	Okada Satoru	呼吸器外科	Risk stratification according to the prognostic nutritional index for predicting postoperative complications after lung cancer surgery	Annals of Surgical Oncology・2018 May;25: 1254-1261	Original Article
82	Okada Satoru	呼吸器外科	Significance of PD-L1 expression in pulmonary metastases from head and neck squamous cell carcinoma	Surgical Oncology・2018 Jun;27: 259-265	Original Article
83	Okada Satoru	呼吸器外科	Clinical application of postoperative non-invasive positive pressure ventilation after lung cancer surgery	General Thoracic and Cardiovascular Surgery・ 2018 Oct;66: 565-572	Original Article
84	Koichi Sakaguchi	内分泌・乳腺外科	Phase II Clinical Trial of First-line Eribulin Plus Trastuzumab for Advanced or Recurrent HER2-positive Breast Cancer.	Anticancer Research. 2018 Jul;38(7):4073-4081	Original Article
85	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Effect of denosumab administration on low bone mineral density (T-score -1.0 to -2.5) in postmenopausal Japanese women receiving adjuvant aromatase inhibitors for non-metastatic breast cancer.	Journal of Bone and Mineral Metabolism. 2019 Mar;37(2):301-306	Original Article
86	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Effects of denosumab on bone mineral density in Japanese women with osteoporosis treated with aromatase inhibitors for breast cancer.	Journal of Bone and Mineral Metabolism. 2018 Nov;36(6):716-723	Original Article
87	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Effect of denosumab on bone mineral density in Japanese women with osteopenia treated with aromatase inhibitors for breast cancer: subgroup analyses of a Phase II study.	Therapeutics and Clinical Risk Management. 2018 Jul 10;14:1213-1218	Original Article
88	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Effect of denosumab on low bone mineral density in postmenopausal Japanese women receiving adjuvant aromatase inhibitors for non-metastatic breast cancer: 24-month results.	Breast Cancer. 2019 Jan;26(1):106-112	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
89	Nakatsukasa Katsuhiko	内分泌・乳腺外科	Dynamic Contrast-enhanced Magnetic Resonance Imaging for Patients with Breast Cancer Receiving First-line Bevacizumab and Paclitaxel.	Anticancer Research. 2018 Sep;38(9):5459-5463	Original Article
90	Nakamura, T., Yoshimura, N., Akioka, et al.	移植一般外科	Clearance of Intra-graft Donor Specific Anti-HLA Antibodies in the Early Stage of Antibody-Mediated Rejection following Rituximab and Apheresis Therapy in Renal Transplantation.	Transplant Proceedings 51(5), 1365-1370. 2018/6/1	Original Article
91	Nakamura, T., Shirouzu, T., Kawai, S. et al	移植一般外科	Detection of Intra-Graft Anti-Blood Group A/B Antibodies following Renal Transplantation	Transplant Proceedings 51(5), 1371-1377. 2018/6/1	Original Article
92	Nakamura, T., Shirouzu, T., Kawai, S. et al	移植一般外科	Graft Immunocomplex capture fluorescence analysis can detect intra-graft anti MHC antibodies in mice cardiac transplantation	Transplant Proceedings 51(5), 1531-1535. 2018/6/1	Original Article
93	Nakamura, T., Matsuyama, T., Harada, S.	移植一般外科	Isolated Superior Mesenteric Artery Dissection following Liver Transplantation: Report of Three Cases.	Transplant Proceedings 51(5), 1502-1505. 2019/2/8	Case report
94	Nakamura, T., et al.	移植一般外科	Upper Extremity Distal Dual Bypass Enables Arteriovenous Fistula Construction in a Critical Limb Ischemia	Journal of Surgical Case Reports (2), 1-3. 2019/2/8	Case report
95	Numajiri Toshiaki	形成外科	Designing CAD/CAM Surgical Guides for Maxillary Reconstruction Using an In-house Approach	J Vis Exp. 138 e58015 2018 Aug 24	Original Article
96	Numajiri Toshiaki	形成外科	Using An In-House Approach to CAD/CAM Reconstruction of the Maxilla.	J Oral Maxillofac Surg. 76(6) Jun 1361-1369, 2018	Original Article
97	Sowa Yoshihiro	形成外科	Preventive Effect on Seroma of Use of PEAK PlasmaBlade after Latissimus Dorsi Breast Reconstruction	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2018 Dec 17;6(12):e2035	Original Article
98	Sowa Yoshihiro	形成外科	Objective evaluation of fat tissue induration after breast reconstruction using a deep inferior epigastric perforator (DIEP) flap	J Plast Surg Hand Surg. 2019 Feb 8:1-5	Original Article
99	Koimizu Jungen	形成外科	Machine Learning and Ethics in Plastic Surgery.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2019 Mar 11;7(3):e2162	Letter
100	Kitanaka S, Takatori R, Arai Y, et al.	整形外科	Facet Joint Osteoarthritis Affects Spinal Segmental Motion in Degenerative Spondylolisthesis.	Clin Spine Surg. 2018 Oct; 31: E386-E390	Original Article
101	Murakami K, Arai Y, Ikoma K, et al.	整形外科	Total resection of any segment of the lateral meniscus may cause early cartilage degeneration: Evaluation by magnetic resonance imaging using T2 mapping.	Medicine (Baltimore). 2018 Jun; 97: e11011	Original Article
102	Shimomura S, Inoue H, Arai Y, et al.	整形外科	Treadmill running ameliorates destruction of articular cartilage and subchondral bone, not only synovitis, in a rheumatoid arthritis rat model.	Int J Mol Sci. 2018 Jun; 19: E1653	Original Article
103	Sasaki K, Morihara T, Kida Y, et al.	整形外科	Visualization of rotator cuff tear morphology by radial magnetic resonance imaging.	Clin Imaging. 2018 Jul - Aug; 50: 264-272	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
104	Yamamoto H, Ueshima K, Saito M, et al.	整形外科	Evaluation of femoral perfusion using dynamic contrast-enhanced MRI after simultaneous initiation of electrical stimulation and steroid treatment in an osteonecrosis model	Electromagn Biol Med. 2018 May; 37: 84-94.	Original Article
105	Sakata M, Tonomura H, Itsuji T, et al.	整形外科	Osteoporotic effect on bone repair in lumbar vertebral body defects in a rat model.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2018 May-Aug; 26: 2309499018770349	Original Article
106	Tonomura H, Hatta Y, Nagae M, et al.	整形外科	Posterior resection of fifth lumbar giant schwannoma combined with a recapping transiliac approach: case report and technical note.	Eur J Orthop Surg Traumatol. 2018 Aug; 28: 1209-1214	Original Article
107	Onishi O, Ikoma K, Oda R, et al.	整形外科	Sequential variation in brain functional magnetic resonance imaging after peripheral nerve injury: A rat study.	Neurosci Lett. 2018 Apr; 673: 150-156	Original Article
108	Moriyama T, Kida Y, Furukawa R, et al.	整形外科	Therapeutic outcomes of muscular advancement by an arthroscopic-assisted modified DeBeyre-Patte procedure for irreparable large and massive rotator cuff tears.	J Orthop Sci. 2018 May; 23: 495-503	Original Article
109	Minami M, Ikoma K, Horie M, et al.	整形外科	Usefulness of Sweep Imaging With Fourier Transform for Evaluation of Cortical Bone in Diabetic Rats	J Magn Reson Imaging. 2018 Aug; 48: 389-397	Original Article
110	Sakata M, Tonomura H, Itsuji T, et al.	整形外科	Bone regeneration of osteoporotic vertebral body defects using PRP and gelatin β -TCP sponges.	Tissue Eng Part A. 2018 Jun; 24: 1001-1010	Original Article
111	Toyama S, Sawada K, Ueshima K, et al.	整形外科	Changes in Basic Movement Ability and Activities of Daily Living After Hip Fractures: Correlation Between Basic Movement Scale and Motor-Functional Independence Measure Scores.	Am J Phys Med Rehabil. 2018 May; 97: 316-322	Original Article
112	Toyama S, Oda R, Tokunaga D, et al.	整形外科	A new assessment tool for ulnar drift in patients with rheumatoid arthritis using pathophysiological parameters of the metacarpophalangeal joint.	Mod Rheumatol. 2019 Jan; 29: 113-118	Original Article
113	Kido M, Ikoma K, Ikeda R, et al.	整形外科	Reproducibility of radiographic methods for assessing longitudinal tarsal axes: Part 1: Consecutive case study.	Foot (Edinb). 2019 Mar 14; 40: 1-7	Original Article
114	Ikoma K, Kido M, Maki M, et al.	整形外科	Early stage and small medial osteochondral lesions of the talus in the presence of chronic lateral ankle instability: A retrospective study.	J Orthop Sci. 2019 Feb (オンライン)	Original Article
115	Yamamoto H, Saito M, Goto T, et al.	整形外科	Heme oxygenase-1 prevents glucocorticoid and hypoxia-induced apoptosis and necrosis of osteocyte-like cells.	Med Mol Morphol. 2019 Jan (オンライン)	Original Article
116	Otakara E, Nakagawa S, Arai Y, et al.	整形外科	Large deformity correction in medial open-wedge high tibial osteotomy may cause degeneration of patellofemoral cartilage: A retrospective study.	Medicine (Baltimore). 2019 Feb; 98: e14299.	Original Article
117	Hosokawa T, Ikoma K, Kido M, et al.	整形外科	Subcutaneous rupture of the flexor hallucis longus tendon at the musculotendinous junction in a soccer player	J Orthop Sci. 2018 Sep (オンライン)	Case report
118	Katsuyama Y, Shirai T, Terauchi R, et al.	整形外科	Chondroid lipoma of the neck: a case report	BMC Res Notes. 2018 Jun; 11: 415	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
119	Ohara M, Oda R, Toyama S, et al.	整形外科	Five-decade-delayed closed flexor tendon rupture due to Galeazzi dislocation fracture associated with Behçet syndrome: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2018 May; 48: 87-91	Case report
120	Mizoshiri N, Shirai T, Terauchi R, et al.	整形外科	Limb saving surgery for Ewing's sarcoma of the distal tibia: a case report	BMC Cancer. 2018 May 2; 18: 503	Case report
121	Mizoshiri N, Shirai T, Terauchi R, et al.	整形外科	Hepatic metastases from primary extremity leiomyosarcomas: Two case reports	Medicine (Baltimore). 2018 May; 97: e0598	Case report
122	Ohashi S, Ikoma K, Kido M, et al.	整形外科	Two-stage correction using the Taylor Spatial Frame for severe hindfoot deformity in a patient with Marfan syndrome: A case report.	J Orthop Sci. 2019 Jan; 24: 178-183	Case report
123	Taisuke Mori	産婦人科	Aromatase as a target for treating endometriosis.	J Obstet Gynaecol Res 44(9):1673-1681 2018.9	Review
124	Hiroyuki Okimura	産婦人科	Endometrioid carcinoma arising from diaphragmatic endometriosis treated with laparoscopy: A case report	J Obstet Gynaecol Res 44(5):972-977 2018.5	Case report
125	Akemi Koshiba	産婦人科	Dienogest therapy during the early stages of recurrence of endometrioma might be an alternative therapeutic option to avoid repeat surgeries	J Obstet Gynaecol Res 44(10):1970-1976 2018.10	Original Article
126	Osamu Takaoka	産婦人科	Daidein-rich isoflavone aglycones inhibit cell growth and inflammation in endometriosis	J Steroid Biochem Mol Biol 181:125-132 2018.11	Original Article
127	Fumitake Ito	産婦人科	Equilin in conjugated equine estrogen increases monocyte-endothelial adhesion via NF- κ B signaling	PLoS One 14(1):e0211462 2019.1	Original Article
128	Taisuke Mori	産婦人科	Multi-institutional phase II study of neoadjuvant irinotecan and nedaplatin followed by radical hysterectomy and the adjuvant chemotherapy for locally advanced bulky uterine cervical cancer: A Kansai Clinical Oncology Group study (KCOG-G1201)	J Obstet Gynaecol Res 45(3):671-678 2019.3	Original Article
129	Hideto Deguchi, Koji Kitazawa, Kanae Kayukawa, et al.	眼科	The trend of resistance to antibiotics for ocular infection of Staphylococcus aureus, coagulase-negative staphylococci, and Corynebacterium compared with 10-years previous: A retrospective observational study	PLoS One. 13(9): e0203705, 2018 Sep.	Original Article
130	Nobuhiro Terao, Hideki Koizumi, Kentaro Kojima, et al.	眼科	Distinct Aqueous Humour Cytokine Profiles of Patients with Pachychoroid Neovascopathy and Neovascular Age-related Macular Degeneration	Sci Rep. 8(1): 10520, 2018 Jul.	Original Article
131	Nobuhiro Terao, Hideki Koizumi, Kentaro Kojima, et al.	眼科	Association of Upregulated Angiogenic Cytokines With Choroidal Abnormalities in Chronic Central Serous Chorioretinopathy	Invest Ophthalmol Vis Sci. 59(15): 5924-5931, 2018 Dec.	Original Article
132	Hiroki Mieno, Kazuhito Yoneda, Masahiro Yamazaki, et al.	眼科	The Efficacy of Sodium-Glucose Cotransporter 2 (SGLT2) inhibitors for the treatment of chronic diabetic macular oedema in vitrectomised eyes: a retrospective study	BMJ Open Ophthalmology. 3(1): e000130, 2018 Jul.	Original Article
133	Tamagawa-Mineoka R	皮膚科	Influence of topical steroids on intraocular pressure in patients with atopic dermatitis.	Allergol Int•2018 Jul; 67: 388-391	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
134	Inoue Yuta, Nakamura T, Nakanishi H,	泌尿器科	Therapy-related acute myeloid leukemia and myelodysplastic syndrome among refractory germ cell tumor patients.	International Journal of Urology. 2018 Jul;25(7):678-683.	Original Article
135	Shiraishi Takumi, Nakamura T, Ukimura O;	泌尿器科	Chemotherapy for metastatic testicular cancer: The first nationwide multi-institutional study by the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association.	International Journal of Urology. 2018 Aug;25(8):730-736.	Original Article
136	Hagiwara Nobuhisa, Watanabe M, Iizuka-Ohashi M,	泌尿器科	Mevalonate pathway blockage enhances the efficacy of mTOR inhibitors with the activation of retinoblastoma protein in renal cell carcinoma.	Cancer Letters. 2018 Sep 1;431:182-189.	Original Article
137	Inoue Yuta, Ushijima S, Shiraishi T,	泌尿器科	Biochemical and magnetic resonance image response in targeted focal cryotherapy to ablate targeted biopsy-proven index lesion of prostate cancer.	International Journal of Urology. 2019 Feb;26(2):317-319.	Original Article
138	Onishi Toshinori	耳鼻咽喉科	Ambient fine and coarse particles in Japan affect nasal and bronchial epithelial cells differently and elicit varying immune response.	Environmental Pollution. 2018 Nov;242(Pt B):1693-1701	Original Article
139	Kuremoto Toshihiro	耳鼻咽喉科	Spontaneous oscillation of the ciliary beat frequency regulated by release of Ca ²⁺ from intracellular stores in mouse nasal epithelia.	Biochem Biophys Res Commun. 2018 Dec9;507(1-4): 211-216	Original Article
140	Inui Takaaki	耳鼻咽喉科	Daidzein-Stimulated Increase in the Ciliary Beating Amplitude via an [Cl ⁻] _i Decrease in Ciliated Human Nasal Epithelial Cells.	International Journal of Molecular Sciences. 2018 Nov 26;19(12). pii: E3754.	Original Article
141	Taki Masakatsu	耳鼻咽喉科	Cerebellar ataxia with neuropathy and vestibular areflexia syndrome (CANVAS)	Auris Nasus Larynx 2018 Aug; 45: 866-70	Case report
142	Kaneko Mami	耳鼻咽喉科	Effects of Voice Therapy on Laryngeal Motor Units During Phonation in Chronic Superior Laryngeal Nerve Paresis Dysphonia.	Journal of Voice. 2018 Nov;32(6):729-733.	Original Article
143	Hashimoto Keiko	耳鼻咽喉科	Activity of swallowing-related neurons in the medulla in the perfused brainstem preparation in rats.	The Laryngoscope. 2019 Feb;129(2):E72-E79	Original Article
144	Tsujikawa Takahiro	耳鼻咽喉科	Robust Cell Detection and Segmentation for Image Cytometry Reveal Th17 Cell Heterogeneity	Cytometry Part A, 2019 Feb; 95: 389-398.	Original Article
145	Teruyuki Matsuoka	精神科・心療内科	Neural correlates of sleep disturbance in Alzheimer's disease: Role of the precuneus in sleep disturbance.	Journal of Alzheimer's disease. 2018 May; 63(3): 957-964.	Original Article
146	Anri Watanabe	精神科・心療内科	The detection of white matter alterations in obsessive-compulsive disorder revealed by TRActs Constrained by UnderLying Anatomy (TRACULA).	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2018 Jun 19; 14: 1653-1643.	Original Article
147	Naoko Iida	精神科・心療内科	Effectiveness of parent training in improving stress-coping capability, anxiety, and depression in mothers raising children with autism spectrum disorder.	Neuropsychiatric Disease and Treatment. 2018 Dec 7; 14: 3355-3362.	Original Article
148	Hikaru Oba	精神科・心療内科	Factors associated with quality of life of dementia caregivers: direct and indirect effects.	Journal of Advanced Nursing, 2018 May; 74(9): 2126-2134	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
149	Yamazaki H, Takenaka T, Aibe N, et al.	放射線科	Comparison of radiation dermatitis between hypofractionated and conventionally fractionated postoperative radiotherapy: objective, longitudinal assessment of skin color.	Scientific reports.2018 Aug 17;8(1):12306	Original Article
150	Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, et al.	放射線科	High-dose-rate brachytherapy monotherapy versus image-guided intensity-modulated radiotherapy with helical tomotherapy for patients with localized prostate cancer.	Cancers (Basel). 2018 Sep 10;10(9). pii: E322	Original Article
151	Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, et al.	放射線科	High-dose-rate brachytherapy monotherapy versus low-dose-rate brachytherapy with or without external beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer.	Radiotherapy and Oncology. 2019 Mar;132:162-170.	Original Article
152	Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, et al.	放射線科	Radiotherapy for elderly patients aged ≥75 years with clinically localized prostate cancer-Is there a role of brachytherapy?.	Journal of Clinical Medicine. 2018 Nov 8;7(11). pii: E424.	Original Article
153	Yamazaki H, Masui K, Suzuki G, et al.	放射線科	Comparison of three moderate fractionated schedules employed in high-dose-rate brachytherapy monotherapy for clinically localized prostate cancer.	Radiotherapy and Oncology. 2018 Nov;129(2):370-376.	Original Article
154	Suzuki G, Yamazaki H, Aibe N, et al.	放射線科	Endoscopic submucosal dissection followed by chemoradiotherapy for superficial esophageal cancer: choice of new approach.	Radiation Oncology. 2018 Dec 14;13(1):246	Original Article
155	Suzuki G, Yamazaki H, Aibe N, et al.	放射線科	Radiotherapy for T1N0M0 esophageal cancer: Analyses of the predictive factors and the role of endoscopic submucosal dissection in the local control.	Cancers (Basel). 2018 Aug 3;10(8). pii: E259.	Original Article
156	Goto M, Sakai K, Yokota H, et al.	放射線科	Diagnostic performance of initial enhancement analysis using ultra-fast dynamic contrast-enhanced MRI for breast lesions.	European Radiology. 2019 Mar;29(3):1164- 1174.	Original Article
157	Takenaka T, Yamazaki H, Suzuki G, et al.	放射線科	Correlation between dosimetric parameters and acute dermatitis of post-operative radiotherapy in breast cancer patients	In Vivo. 2018 Nov- Dec;32(6):1499-1504.	Original Article
158	Nakamura Y, Nakagawa T, Sakai K, et al.	放射線科	Usefulness of the principle of selective excitation technique non-electrocardiogram-gated 3D-TOF method in lower-extremity MRA using a whole-body coil.	Nihon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi. 2018 Nov;74(11):1319-1328	Original Article
159	Kinoshita Mao	麻酔科	Novel Formula for Calculation of the Optimal Insertion Depth for Cuffed Endotracheal Tubes in Pediatric Major Surgery.	Open journal of Anesthesiology. 2019 January ; 9(3):42-5	Original Article
160	Takemura Hitomi	麻酔科	Peripheral nerve block combined with general anesthesia for lower extremity amputation in hemodialysis patients: case series	JA Clinical Reports. 2018 December ; 4:77	Case report
161	Fukuhara S, Nakajima H, Sugimoto S, et al.	小児科	Hi-fat diet accelerates extreme obesity with hyperphagia in female heterozygous Mecp2-null mice	PLoS One. 2019 Jan 4; 14(1): e0210184.	Original Article
162	Tsuma Y, Mori J, Ota T, et al.	小児科	Erythropoietin and long-acting erythropoiesis stimulating agent ameliorate non-alcoholic fatty liver disease by increasing lipolysis and decreasing lipogenesis via EPOR/STAT pathway	Biochem Biophys Res Commun. 2019 Jan 29; 509(1): 306-313.	Original Article
163	Tomoyasu C, Kikuchi K, Kaneda D, et al.	小児科	OBP-801, a novel histone deacetylase inhibitor, induces M-phase arrest and apoptosis in rhabdomyosarcoma cells	Oncol Rep. 2019 Jan; 41(1): 643-649.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
164	Kanayama T, Imamura T, Kawabe Y, et al.	小児科	KMT2A-rearranged infantile acute myeloid leukemia masquerading as juvenile myelomonocytic leukemia	Int J Hematol. 2018 Dec; 108(6): 665-669.	Case report
165	Tomoyasu C, Imamura T, Tomii T, et al.	小児科	Copy number abnormality of acute lymphoblastic leukemia cell lines based on their genetic subtypes	Int J Hematol. 2018 Sep; 108(3): 312-318.	Original Article
166	Hasegawa T, Yamada K, Tozawa T, et al.	小児科	Cerebellar peduncle injury predicts motor impairments in preterm infants: A quantitative tractography study at term- equivalent age	Brain Dev. 2018 Oct; 40(9): 743-752.	Original Article
167	Suematsu M, Imamura T, Chiyonobu T, et al.	小児科	Lumbosacral polyradiculopathy after intrathecal chemotherapy in pediatric acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol. 2018 May; 107(5): 499-501.	Case report
168	Morimoto H, Nakajima H, Mori J, et al.	小児科	Decrement in bone mineral density after parathyroidectomy in a pediatric patient with primary hyperparathyroidism	Clin Pediatr Endocrinol. 2018 Apr 13; 27(2):81-86	Case report
169	Hisayuki Hngu	小児心臓血管外科	Late Results of Half-Turned Truncal Switch Operation for Transposition of the Great Arteries.	Ann Thorac Surg.2018 Nov;106(5):1421-1428	Original Article
170	Shuhei Fujita	小児心臓血管外科	Leaflet-base-preserving truncal valve repair with ethanol-treated autologous pericardium	J Thorac Cardiovasc Surg.2018 Sep 28 volume157:1114-1116	Original Article
171	Yamamoto Kenta	歯科	Direct phenotypic conversion of human fibroblasts into functional osteoblasts triggered by a blockade of the transforming growth factor- β signal	Scientific Reports・2018 May・(オンライン)	Original Article
172	Kimura Isao	歯科	Effects of far infrared radiation by isotropic high-density carbon on the human oral mucosa	Archives of Oral Biology・ 2018 Oct;94:62-68	Original Article
173	Marunaka Rie	歯科	Action of protein tyrosine kinase inhibitors on the hypotonicity-stimulated trafficking kinetics of epithelial Na ⁺ channels (ENaC) in renal epithelial cells: analysis using a mathematical model.	Cellular Physiology and Biochemistry・2018 Oct; 50・1:363-377	Original Article
174	Sato Yoshiki	歯科	Nanogel tectonic porous 3D scaffold for direct reprogramming fibroblasts into osteoblasts and bone regeneration.	Scientific Reports・2018 Oct・(オンライン)	Original Article
175	Shirasugi Michihiro	歯科	Relationship between periodontal disease and butyric acid produced by periodontopathic bacteria	Inflammation and Regeneration・2018 Dec・ (オンライン)	Review
176	Shirahase Takahira	歯科	Ethanol Preference and Drinking Behavior Are Controlled by RNA Editing in the Nucleus Accumbens	Frontiers in Behavioral Neuroscience・2019 Jan・ (オンライン)	Original Article
177	Imoto D, Sawada K, Horie M et al.	リハビリテーション科	Factors associated with falls in Japanese polio survivors.	Disabil Rehabil. 2019 Jan 7:1-5.	Original Article
178	Nishimura Ayako	病理診断科	Clinicopathological and immunohistochemical analysis of plasma cell-rich rejection in renal transplantation: Involvement of intratubular Th1/Th2 balance in plasma cell enrichment	Nephrology. 23:52-57, 2018.07	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別	
179	Tohru Inaba	臨床検査部	Comparison of neutrophil distribution patterns in Jordans' anomaly among major automated hematology analyzers	International Journal of Laboratory Hematology 40:e78-81, 2018, Aug.	Original Article	
180	Tohru Inaba	臨床検査部	Prominent increase of Pappenheimer body-containing erythrocytes in a patient with hypoplastic spleen	International Journal of Hematology 108; 351-352, 2018 Oct.	Case report	小計 2

計 180件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	-	-	-	-	Original Article

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 学長の業務、研究者等の責務等、研究責任者の業務、他機関への既存資料・情報等の提供、審査委員会の事務・審査記録の保存、講習の受講、データベースの登録	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「京都府公立大学法人の利益相反の管理に関する規程」…利益相反の管理や判断基準等を規定 「京都府立医科大学利益相反委員会規程」…設置目的や組織編成等について規定 「京都府立医科大学臨床研究に係る利益相反の管理に関する取扱規程」…臨床研究における利益相反の管理について規定	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年10回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容（主な演題は以下のとおり） 「臨床研究事例を通じて研究公正を学ぶ」 「研究倫理教育について考える」 「科学に携わるための倫理」 「研究不正と倫理教育を考える」 「研究・出版の公正」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科において、専門医・認定医取得のための高度な医療知識・スキルを習得させる。
(プログラムは各科ごとに作成)

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 220人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山口 寛二	消化器内科	助教 (学内講師)	22年	
中村 猛	循環器内科	講師	24年	
塩津 弥生	腎臓内科	助教 (学内講師)	15年	
金子 美子	呼吸器内科	助教	19年	
山崎 真裕	内分泌・糖尿病・代謝内科	講師	23年	
志村 勇司	血液内科	助教 (学内講師)	13年	
和田 誠	膠原病・リウマチ・アレルギー科	助教	21年	
藤並 潤	脳神経内科	助教	13年	
中西 正芳	消化器外科	准教授	26年	
沼田 智	心臓血管外科	助教 (学内講師)	24年	
前田 吉宣	小児心臓血管外科	助教	19年	
下村 雅律	呼吸器外科	助教 (学内講師)	17年	
森田 翠	内分泌・乳腺外科	助教	11年	
昇 修治	移植・一般外科	講師	21年	
古川 泰三	小児外科	准教授	24年	
素輪 善弘	形成外科	講師	16年	
立澤 和典	脳神経外科	講師	25年	
白井 寿治	整形外科	准教授	23年	
楠木 泉	産婦人科	准教授	28年	
森 潤	小児科	助教 (学内講師)	11年	
鎌田 さや花	眼科	助教	14年	
浅井 純	皮膚科	講師	18年	
鈴木 啓	泌尿器科	助教 (学内講師)	20年	
新井 啓仁	耳鼻咽喉科	助教 (学内講師)	16年	
阿部 能成	精神科・心療内科	助教	9年	
高畑 暁子	放射線科	助教	18年	
石井 祥代	麻酔科	助教	15年	
深澤 圭太	疼痛・緩和ケア科	助教 (学内講師)	24年	
坂野 元彦	リハビリテーション科	助教 (学内講師)	13年	
山畑 佳篤	救急医療科	講師	21年	
山本 俊郎	歯科	講師	23年	
小西 英一	病理診断科	病院教授	33年	
中西 雅樹	感染症科	講師	24年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
○ 集中治療部看護師研修会：「血液浄化」 90 分×1 回実施、参加人数 4 名 ○ D4 病棟看護師研修会：「人工呼吸器の取り扱い」 60 分×1 回実施、参加人数 12 名 ○ 看護師研修会：「人工呼吸器の基礎」 80 分×5 回実施、参加人数 38 名 ○ 集中治療部看護師研修会：「補助循環について」 60 分×1 回実施、参加人数 5 名 ○ 看護師研修会：「血液透析について」 60 分×1 回実施、参加人数 9 名 ○ 看護師研修会：「除細動器・輸液ポンプ・シリンジポンプについて」 60 分×2 回実施、参加人数 13 数名 ○ 看護師研修会：「心電計・ベッドサイドモニタについて」 60 分×1 回実施、参加人数 7 名 ○ 薬剤部研修会：「血液浄化について」 20 分×1 回実施、参加人数 35 名 ○ 輸血療法研修会：「安全な輸血」 4 日・4 回、参加人数 160 名（新人ナース中心）
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
○ 認定輸血検査技師病院研修 H30. 5. 21～22、2 名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 夜久 均	
管理担当者氏名	事務部長 四辻 直樹	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	診療情報管理室 病棟 調剤室 フィルム庫 病院管理課 ・平成20年1月から電子カルテシステムを導入し、電子データでの管理を行っている。 ・紙カルテ（手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の経過記録の要約等）は、診療情報管理室に保管。 ・処方箋は調剤室に、エックス線フィルムはフィルム庫保管。 ※診療録を病院外に持ち出すことは「診療記録貸出・返却要領」で禁止している。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	経営企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	経営企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営企画課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染対策部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部 医療安全管理部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人本部総務室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法人本部総務室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人本部総務室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院管理課長 田川 裕隆		
閲覧担当者氏名	病院管理課副課長 片山 和彦		
閲覧の求めに応じる場所	病院管理課 総務調整担当		
閲覧の手続の概要			
閲覧請求者の住所、氏名、請求記録名、閲覧理由を聴取した上で、請求のあった記録を所管する部署から該当資料を取り寄せ、病院管理課内で閲覧に供する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： ・ 医療事故を防止し、安全かつ適切な医療を提供する体制 ・ 安全管理のための基本的な考え方 ・ 安全管理のための組織 ・ 医療事故発生時の対応 ・ 医療事故及びインシデント報告制度 ・ 職員の教育・研修及び啓発 ・ 患者相談窓口 ・ 患者本位の医療の提供 ・ 診療行為に内在する危険防止のために必要な情報を患者に提供	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 ((有)・無) ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 安全管理のための指針の策定及び変更 ・ 院内で発生した医療事故、インシデントの調査分析、再発防止策の立案・実施 ・ 安全管理のための教育・研修及び啓発の検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 26 回
・ 研修の内容 (すべて)： ・ 診療記録の記録指針の研修 ・ 医薬品の安全対策に関する最近の話題 ・ 院内で急変した患者さんを助けるために ・ 診療科間の連携不足が医療事故に繋がる ・ 循環器内科医からみた医療安全	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ オカレンス報告の実施 ・ 職員間での情報共有と注意喚起のためのインシデント事例等を掲載した「医療安全管理部ファイル」の作成 供覧 ・ 医療安全レターによる情報提供と注意喚起 ・ 急変対応ワーキングチームによるシステムの見直し、院内蘇生講習 ・ 医療安全のための院内ラウンドの実施	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本的な考え方 ・ 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項 ・ 院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 ・ 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応に関する基本方針 ・ 患者への情報提供と説明に関する基本方針 ・ 病院における院内感染対策の推進における基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： ・ 感染症発生状況（対応状況も含む） ・ MRSA等耐性菌の発生状況報告（対応状況も含む） ・ 抗MRSA薬等の使用状況報告（適正使用に関する指導状況も含む） ・ その他院内感染対策の推進に関する方策の検討	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 19 回
・ 研修の内容（すべて）：（DVD研修も含めて） ・ 血管内留置カテーテル関連血流感染の「撲滅」をめざして ・ 見直そう血液培養！ ・ 本当に恐ろしい黄色ブドウ球菌 ・ インフルエンザ／抗菌薬の知識 ・ 小児医療センター感染予防対策研修会 ・ 耳鼻咽喉科感染対策研修会 ・ 歯科診療における感染対策	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有 無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 各所属に「感染対策推進員」を配置し、年 4 回の合同会議の開催を計画し、院内感染対策の推進を図っている。 さらに看護部門には推進員とは別に「リンクナース」を配置し、月 1 回の定期的な会を開催し院内感染対策の推進を図っている。また、感染症情報やその対応について、院内主要会議でのアナウンスを行い、電子カルテシステムの掲示板の活用等の手段により随時周知徹底を図っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の主な内容： <全職員対象> ○医薬品安全管理セミナー「最近の医薬品安全対策」 講演：2018/5/30：47名、6/7：179名、DVD集合：116名、DVD貸出：326名、計668名 ○抗菌薬適正使用推進研修会「抗菌薬の知識」 講演：2018/11/8：296名、DVD集合：143名、DVD貸出：825名、計1,264名 <部門別> ○新人看護職員対象「医薬品の取扱い」 開催日：2018/4/6：82名 ○手術室医師対象「麻薬・筋弛緩薬の取扱い」 開催日：2018/4/2、4/5、5/7、6/4、7/2、7/30、9/3、10/1、11/5、12/3、2019/1/7、2/4：計39名 <その他> ○研修医オリエンテーション、病棟薬剤師による各病棟での学習会等	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 1) 業務手順書に基づく年2回の業務チェックと手順書の見直し ・係長以上で年2回、業務手順書の再点検をし、医療に関する安全管理対策会議に諮ったうえで手順書を改定 2) 医薬品安全管理に関する院内ラウンド ・係長以上で年1回、全部署を訪問。手順書に基づく業務の遂行、特に医薬品や鍵、注射シリンジ等の管理状況、救急カート薬や備品の安全な使用、口頭指示の適切な運用、薬剤部から発信している情報の共有状況、輸液ソフトバックを取り扱う際のピンホールの有無のチェック、PTPシートの誤飲対策等を確認	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ハブリックス（A型肝炎ワクチン）、タイフィム（腸チフスワクチン）、ペロラボ（狂犬病ワクチン）、プリオリックス（麻疹・風疹・ムンプスワクチン） ブーストリックス（破傷風・百日咳・ジフテリアワクチン）を渡航ワクチン外来で使用。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 未承認薬、適応外処方等の情報収集等 ①医学倫理審査委員会、臨床倫理委員会でのかかわり ・未承認薬及び適応外処方の審査及び安全な投与に向けた介入 ②薬剤部内・病棟内でのかかわり ・未承認薬の持込 → 入退院センター業務、病棟薬剤業務、DI業務の中で把握 ・病棟での適応外使用 → 病棟薬剤業務の中で把握	

2) 院内での医薬関連事故等の把握と対策

- ①医療に関する安全管理対策委員会、医療安全サポート会議での検討（各月1回）
- ②医薬品安全管理委員会での検討（月2回）
 - ・アクシデント事例、ヒヤリハット事例の共有と対策の立案
 - ・未承認薬の処方状況の把握と共有

3) 薬剤部での通常の実組（主なもの）

- ①DIニュースの発行（月1回）
- ②緊急安全性情報・安全性速報、厚労省医薬品・医療機器等安全性情報の他、重要な通知に関する電子カルテへの掲示、院内配布
- ③重要な情報は患者を特定し処方医に文書で通知し、確認印の押されたものを薬剤部で回収
- ④粉碎・一包化の可否情報、麻薬Q&A等薬剤部で加工した文書の電子カルテへの掲示
- ⑤向精神薬の重複処方・過剰処方のモニタリングと注意喚起
- ⑥注射薬ラベルへのルート・フィルター選択上の注意記載
- ⑦院外処方せんへの検査値記載及びトレーシングレポートシステムの導入

4) 薬剤部での新たな取組

- ①注射薬調製監査カメラの設置（2018/6）
- ②院外処方におけるテレフォン・フォローアップの導入（2018/10）
- ③全病棟でのスパイクセットの導入（2018/10）
- ④院外処方箋における表示検査項目の追加（2019/1）

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年15回
・ 研修の主な内容： ・ 人工呼吸器の取扱い、補助循環 (ECMO) 研修会、ペースメーカー研修 (基礎) ・ 新規導入機器研修会、除細動器実習研修会、血液浄化 (透析)、 ・ 新規医療機器研修会 (輸液ポンプ、パルスオキシメーター)、人工心肺研修会、他	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： MEセンターによる年2回の定期点検 (4500台)、特定保守管理機器のメーカー点検 (9品目74台) 実施済	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 院内での医療機器に関する医療事故関連情報の把握：医療安全サポート会議 (1回/月) ・ 消化器内視鏡室での内視鏡関連機器の運用状況把握 ・ 医療機器管理部からの医療機器関連安全並びに取扱い方法に関する情報の発信：MEセンター通信の発行 (6回/年) ・ 在宅人工呼吸器の使用状況把握	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・ 責任者の資格 (医師)・ 歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当の副病院長、医療安全管理部部長、医療にかかる安全対策委員会の委員長として病院全体の安全に関わる事柄を統括し指示・指導を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室において、院内の医薬品の使用状況を月1回確認している。その結果を踏まえて、添付文書情報(禁忌等)、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用時の安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告する。特に、安全使用が懸念される医薬品(ラモトリギン等)については、医薬品毎に担当者を決め、安全体制を強化している。 緊急安全性情報、医薬品・医療機器等安全性情報、医薬品の回収情報など周知徹底の必要な情報は、既に電子媒体や紙媒体など複数の方法によって確実かつ速やかに提供している。 特に重要な情報については、処方患者を特定し処方医に注意文書を配布するとともに、処方医に閲覧印を取った後、回収することによって、周知を徹底している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 申請書、同意書の確認。 臨床使用が妥当かの情報収集と事前審査。 使用後のモニタリング。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有)・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月3診療科について診療録を確認し、定められた事項の遵守状況の点検を行い、必要時、指導を行っている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 「退院時要約」、「手術記録」、「入院診療計画書」、「継続看護記録」について作成の有無を確認するなど診療記録の量的点検に取り組んでいる。また、「診療記録記載指針」を策定し、記載すべき項目や留意点を示して職員研修を実施するとともに、医師、看護師、コメディカルからなるWGにより診療記録の点検及び意見交換を行い、その結果を各所属にフィードバックすることで、診療記録の質的向上にも取り組んでいる。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（５）名、専任（１）名、兼任（７）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（１）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（１）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療事故、インシデント、オカレンスに係る報告のとりまとめ ・ 医療事故、インシデントの発生原因の調査、分析 ・ 安全対策の実施状況、医療事故発生時の対応状況に関する調査、確認、指導 ・ 安全管理のための教育、研修の実施 ・ 安全対策の推進 ・ 院内死亡事例の確認と病院長への報告 ・ インフォームド・コンセント実施要綱に従った説明同意書の作成推進と要綱の遵守状況の点検 * 集中治療部門、手術部門で一定の基準以上の事象が発生した事例の把握（オカレンス報告）、入院患者の転倒・転落発生率・心肺蘇生実施の把握などのモニタリングの実施 * 研修時にアンケートを行い、医療安全に関する認識の把握 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6 件）、及び許可件数（5 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：高難度新規医療技術による医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。
高難度新規医療技術導入審査委員会 4 回開催
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（5 件）、及び許可件数（4 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・ 活動の主な内容：
未承認薬等を使用する医療を行う場合に、実施の適否等について審査及び承認を行うほか、当該医療を行う職員の遵守事項等の遵守状況を実施結果報告書により確認している。
臨床倫理承認委員会 4 回開催
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 376 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年アクシデント報告 46 件、オカレンス報告 113 件 計 159 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡診断書と「医療事故該当性の主治医チェック表」の提出（報告）後、医療安全管理部副部長（医師）と安全管理推進者が診療録を確認した後、医療安全管理部部内会議で医療事故該当性について検討を行う。その情報を元に医療に関する安全対策委員会（医療安全管理委員会）で検討し、医療事故該当性について最終的な判断を行う。早急な対応が必要な場合緊急の対策委員会を開催する。

手術室、ICU、PICU で一定の基準を定めオカレンス報告を実施。アクシデント報告・オカレンス事例について医療に関する安全対策委員会で報告・検討を行っている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：北海道大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：東北大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

平成 30 年 10 月 19 日に国東北大学病院から 6 名の調査員の訪問を受け入れ、書類審査、ヒアリング等が行われた。主な確認内容は、①高難度新規医療技術を用いた医療の提供②医薬品等の安全管理体制③医療安全管理部門の人員配置④インシデント、アクシデントの報告状況⑤医療安全管理委員会の業務状況⑥医療安全に対する診療情報の把握のためのモニタリング⑦監査委員会の業務結果及び指摘事項への対応状況であった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

「患者相談等に関する要綱」に基づき、平成 15 年 4 月 1 日から「患者相談窓口」（医療サービス課所管）を設置し、事務職員、P S W・M S Wが、平日の 8 時 45 分から 17 時まで対応している。

その際に、患者、家族等からの相談、要望、意見等を専門の相談員又は安全管理推進者がお聞きして支援することとしている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

全職員を対象とした医療安全研修会として、医療事故調査制度やインシデント・アクシデントの具体的事例の改善策、安全な医療を行うために必要な知識、医療と法律に関する内容について研修を実施した。また、新採用者、研修医に対しては、インシデント・アクシデント報告の流れ、具体的事例の改善策についての研修を実施した。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：日本医療機能評価機構 平成 29 年度特定機能病院管理者研修受講 (2018/1/9-10)

医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者：日本医療機能評価機構
平成 30 年度特定機能病院管理者研修受講 (2019/1/23)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 (1) 学内外を問わず、日本国の医師免許を有する者 (2) 附属病院の理念及び基本方針に基づいた病院運営を行う能力を有する者 (3) 医療安全管理業務の経験、患者の安全を第一に考える姿勢及び指導力等を有する者 (4) 病院での組織管理経験及び高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法：法人のホームページで公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	☒ 有・無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（☒有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（☒有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法：法人のホームページで公表				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の 関係
中井 敏宏	公立大学法人本部		選考等に関する規程第2条第3項第1号	☒ 有・無
竹中 洋	京都府立医科大学	○	選考等に関する規程第2条第3項第2号	☒ 有・無
奥田 司	同 分子生化学		選考等に関する規程第2条第3項第3号	☒ 有・無
北脇 城	同 附属病院		選考等に関する規程第2条第3項第4号	☒ 有・無
佐和 貞治	同 附属病院 医療安全管理部		選考等に関する規程第2条第3項第5号	☒ 有・無
藤本早和子	同 附属病院看護部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	☒ 有・無
藤井 和男	同 附属病院事務部		選考等に関する規程第2条第3項第6号	☒ 有・無
岡村 吉隆	誠佑記念病院		選考等に関する規程第2条第3項第7号	有・ ☒ 無
古家 仁	奈良県立医科大学 附属病院		選考等に関する規程第2条第3項第7号	有・ ☒ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		☒ 有・無	
・合議体の主要な審議内容 (1) 京都府立医科大学附属病院の運営方針に関すること。 (2) 附属病院の中期計画・年度計画に関すること。 (3) 附属病院の予算・決算に関すること。 (4) その他附属病院の運営に関する重要な事項に関すること。 ・審議の概要の従業者への周知状況 会議での審議の概要については、臨床部長会等で周知を行う。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（☒有・無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
夜久 均	○	医師	病院長
佐和 貞治		医師	副病院長 医療安全管理部長
田尻 達郎		医師	副病院長
加藤 則人		医師	副病院長
藤本 早和子		看護師	副病院長、看護部長
四方 敬介		薬剤師	薬剤部長
轟 英彦		放射線技師	医療技術部長
四辻 直樹		事務	事務部長
田川 裕隆		事務	病院管理課長
菱木 智一		事務	経営企画課長
澤村 友一		事務	医療サービス課長
塩見 豊寿		事務	総務課長
絹谷 義彦		事務	経理課長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）

京都府立医科大学附属病院規程（平成 30 年 4 月 1 日 京都府立医科大学規程第 369 号）の制定

- ・ 公表の方法

学内 H P に掲載（他の大学規程と同様の取扱い）

- ・ 規程の主な内容

附属病院の運営上必要な組織、職、業務内容、その他附属病院の管理・運営等に必要な事項を定めるもの

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

管理者をサポートする体制として、以下の会議を規程により設置

- ・ 病院管理運営会議（病院の運営方針等を決定する合議体。病院長、副病院長等で構成）
- ・ 病院経営改善推進会議
（病院の経営改善の方針、運営を審議。学長、副学長、病院長、副病院長等で構成）
- ・ 病院経営改善企画会議
（病院の運営方針の企画、管理運営を審議。病院長、副病院長等で構成）
- ・ 臨床部長会（病院の運営、診療を審議。診療部長等で構成）

他に、個別の課題に対応するため、医療材料検討委員会や病床運用検討委員会など、病院長、担当副病院長が出席する委員会を設置している。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

- ・ 病院長の指名により副病院長、薬剤部長、医療技術部長等の管理職員を配置している。
また、中央部門の長等及び各種委員会の委員についても病院長が指名している。
- ・ 病院長、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者について、日本医療機能評価機構による「特定機能病院管理者研修」を受講
- ・ 外部講師による「病院経営改善セミナー」に病院長及び管理職員が参加

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					☒ 有 ☐ 無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 病院の医療安全管理部、医療に関する安全対策委員会、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者等の業務の状況について、病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じ、医療に係る安全管理については是正措置を講ずるよう意見を表明する。 ・ 監査の結果について速やかに公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（☒ 有 ☐ 無） ・ 委員名簿の公表の有無（☒ 有 ☐ 無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（☒ 有 ☐ 無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（☒ 有 ☐ 無） ・ 公表の方法：京都府公立大学法人ホームページに掲載						
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）						
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況	
松村 由美	京都大学医学 部附属病院	○	特定機能病院の医療 安全管理体制に精通 している。	有 ☒ 無	1	
平野 哲郎	立命館大学法 科大学院法務 研究科		法律研究者として関 係の法律に精通して いる。	有 ☒ 無	1	
佐藤 恵子	京都大学医学 部附属病院		生命倫理学の観点か ら医療問題に精通し ている。	有 ☒ 無	1	
秋篠 憲一			本院の患者として医 療を受ける者の代表	有 ☒ 無	2	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

京都府公立大学法人コンプライアンス推進規程
京都府公立大学法人コンプライアンス委員会設置要綱

公立大学法人総務・経営担当理事を委員長とし、法人所管の 2 大学の学長、法人の教職員の身分を有していない理事のほか、コンプライアンスに関する有識者で構成するコンプライアンス委員会において、コンプライアンスの推進に係る制度の実施状況の把握、点検、評価等を行うとともに、通報事案の解決策の明示、再発防止策の策定を行う。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ☐ 無)

・ 公表の方法

コンプライアンス推進規程及び内部通報制度に関する要綱を京都府公立大学法人ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 京都府公立大学法人理事会 病院長は理事として出席 病院の業務実績等について定期的に報告 ・ 会議体の実施状況（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 1 1 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 京都府公立大学法人ホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無） ・ 周知の方法 京都府公立大学法人及び京都府立医科大学附属病院ホームページに掲載 京都府立医科大学コンプライアンス指針に掲載（教職員研修等で周知）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 （公財）日本医療機能評価機構、平成28年2月（認定期間：平成28年3月20日～平成33年3月19日）	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページに本院の特定機能病院としての医療提供に係る特色、病院の理念・基本方針各種指定の状況等について掲載し、情報発信を行っている。 また、患者向け広報誌を発行（年3回）し、院内での取組等について、定期的に情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有 ☐ 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 外来では、消化器センター、循環器センター、呼吸器センターなど7つのセンターで、複数診療科が連携して診療対応に当たっている。	